

# 履 修 要 覧

平成26年度版  
(2014年度版)

大 阪 市 立 大 学 工 学 部  
大阪市立大学大学院工学研究科

## 学部・大学院人材育成目標

### 人材育成の理念

- ・科学を基礎とした柔軟な工学的センスと確かな倫理観を備えた技術者・研究者の育成をめざす。
- ・新産業の創生など社会の発展に工学的貢献ができる技術者・研究者の育成をめざす。
- ・地球的視点から多面的に諸問題を解決し、21世紀の都市の創造に貢献できる技術者・研究者の育成をめざす。

### 人材育成目標

#### (学部)

- ・自然科学と数学の基礎知識を習得し、科学技術の新たな展開にも柔軟に対応できる人材を育成する。
- ・工学における専門知識と基礎的なデザイン能力を習得し、その知識や能力を実際の技術に活用できる人材を育成する。
- ・工学的課題を論理的に思考できる人材を育成する。
- ・日本語及び外国語による基礎的コミュニケーション能力を有する人材を育成する。
- ・技術者、研究者としての社会的使命と責任を自覚し、倫理に基づき行動できる人材を育成する。

#### (大学院前期博士課程)

- ・専門技術者及び研究者として、より深い専門知識と応用力を有する人材を育成する。
- ・工学的課題を発見する能力とその解決能力を備えた人材を育成する。
- ・高度なコミュニケーション能力を備え、国際的に活躍できる人材を育成する。

#### (大学院後期博士課程)

- ・高度な研究開発能力を備え、研究・教育の中核を担い、社会に対して主体的に貢献できる人材を育成する。
- ・専門分野において独創的に研究開発を推進できる人材を育成する。
- ・専門分野における創造性と問題解決能力を有し、産学官の研究開発領域において十分な指導力を発揮できる人材を育成する。

# 目 次

大阪市立大学工学部履修規程	1	
平成 26 年度入学者履修表		
機 械 工 学 科	3	
電 子 ・ 物 理 工 学 科	9	
電 気 情 報 工 学 科	15	
化 学 バイオ工 学 科	20	
建 築 学 科	27	
都 市 学 科	32	
大阪府立大学との単位互換制度について	40	
大阪市立大学大学院工学研究科履修規程	41	
大学院授業科目（別表 1・2）	44	
	前期博士課程・別表 1	後期博士課程・別表 2
機 械 物 理 系 専 攻	44	54
電 子 情 報 系 専 攻	46	54
化 学 生 物 系 専 攻	49	55
都 市 系 専 攻	51	55
資 格 に つ い て	56	
教 職 免 許 に つ い て	58	
そ の 他 注 意 事 項	60	

# 大阪市立大学工学部履修規程

制 定 昭和 35 年 2 月 11 日  
最近改正 平成 26 年 1 月 23 日

(学科・課程)

第 1 条 大阪市立大学工学部（以下「本学部」という。）に次の 6 学科を置く。

機 械 工 学 科	電 子 ・ 物 理 工 学 科	電 気 情 報 工 学 科
化 学 バイ オ 工 学 科	建 築 学 科	都 市 学 科

2 教育課程の履修方法及び卒業の認定については、この規程の定めるところによる。

(在学年限及び除籍)

第 2 条 在学年限は 8 年とする。在学年限内に卒業に必要な単位を修得できない者及び本規程第 1 1 条第 2 項による単位の修得ができない者については、除籍する。

(単位の計算方法)

第 3 条 各授業科目の単位計算方法は、原則として次の基準により計算するものとする。

(1) 講義、演習は 15 時間から 30 時間までの範囲で各学科が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

(2) 実験、実習等は 30 時間から 45 時間までの範囲で各学科が定める時間の授業をもって 1 単位とする。

(授業科目・単位数)

第 4 条 卒業の認定に必要な授業科目及びその単位数等は、年度毎に定める別表「全学共通科目（総合教育科目、外国語科目、健康・スポーツ科学科目及び基礎教育科目）」並びに「工学部専門教育科目」による。

(単位の認定・学習の評価)

第 5 条 単位の認定は、原則として試験による。

学習の評価は、100 点満点法によることを原則とする。60 点以上を合格とし、60 点未満を不合格とする。

合格については、AA（100～90 点）、A（89～80 点）、B（79～70 点）、C（69～60 点）、不合格については F（59～0 点）と表示する。

2 合格した者には、所定の単位を与える。

(履修の手続き)

第 6 条 学生は受講する全科目について、あらかじめ指定された期日までにW e b履修システムにより履修登録しなければならない。なお、履修登録をしない科目については、受講することができない。科目の配当・履修年次は、各学科の規程による。

2 履修登録に不備や誤りがある場合は、期日までにW e b履修システムにより修正しなければならない。

3 既に単位を修得した科目については、再履修することができない。

(試験)

第 7 条 前期の試験は、原則として7月14日以降2週間の期間内に、後期の試験は、原則として1月24日以降2週間の期間内に行う。

第 8 条 学生は、受講した授業科目でなければ、その試験を受けることができない。

2 試験において不正行為を行った場合、教授会の議を経て、その学期の試験成績を全て無効にする。

第 9 条 試験に欠席した者、又は不合格となった者に対しての再試験は、実施しない。

第10条 試験の際、病気その他やむを得ない事情により受験できなかった者に対して、追試験を行うことができる。

(進級の認定)

第11条 3年以上在学し、3年次終了までに各学科の定める単位数を修得した者に限り、4年次配当の科目の履修許可及び4年次への進級を認定する。

2 前項の各学科の定める単位数は、本学入学後6年以内に修得しなければならない。

(卒業の認定)

第12条 4年以上在学し、必修科目を修了し、かつ、所定の単位数を修得した者に対し、教授会の議を経て卒業を認定する。

(実施細目)

第13条 本規程の実施細目については、各学科の定めるところによる。

(その他)

第14条 この規程に疑義の生じたときは、教授会で決定する。

附則〔以下省略〕

# 機械工学科

## 学習・教育目標

機械工学は社会のあらゆる産業分野で必要とされる基盤的学問分野であり、機械技術者には、確かな専門知識とともに各技術分野の特性に応じた柔軟な応用力が要求される。そこで本学科では、どのような時代においても普遍的に必要な専門知識を習得し、同時に応用力の源泉となる幅広い教養を身につけた人材を育成する。機械工学はまた、このような基盤的側面のみならず最先端の技術をリードする工学領域でもあるため、本学科では現代社会の急速な変化に対応した先端工学分野の発展に積極的に貢献できる人材を育成することも目指している。さらに機械の技術は人間の環境・社会に直接影響をおよぼすものであるため、単に限定された狭い領域の技術だけでなくグローバルな環境問題や持続的発展が可能な社会の構築などに目を向けることのできる技術者を養成することも本学科の重要な人材育成目標である。本機械工学科は、このような人材育成目標のもとでつぎの教育目標を掲げている。

- ・ 幅広い教養と知識に基づいて問題を解決できるデザイン能力の養成
- ・ 科学技術の進展に寄与できる基礎学力と応用力の養成
- ・ 機械工学に関する広範な専門知識の習得
- ・ 実験等を計画・遂行し、結果を解析し、それを工学的に考察する能力の養成
- ・ 人間・社会・環境の調和に対する責任感や倫理観の養成
- ・ 論理的思考能力と記述・コミュニケーション能力の養成

具体的な教育内容は、基礎教育では、専門科目を学習するのに必要な物理や数学などの基礎科学、国際的コミュニケーション能力の涵養に不可欠な語学、幅広い教養を培う人文社会系科目などを学習する。

専門教育では、機械工学の基盤的な科目である力学系の基礎科目や機械材料学、工業数学などを学習する。また、2学年の後期からは次の3つの教育分野のいずれかを選択し、各分野の科目を重点的に学習する。このようにして基盤的領域から先端技術まで幅広い工業技術分野で活躍できる人材の育成を目指す。

### ■環境・エネルギー機械分野

エネルギーや生産に関する工学、流体や熱の流れの力学、これらを環境の観点からとらえる環境エネルギー工学などを主に学習する

### ■システムダイナミクス分野

ロボティクス、制御工学、知的材料工学などの、先端的機械や装置・システム・材料の設計・製作・運用に関する科目を主に学習する

### ■マテリアルデザイン分野

原子・分子からマクロスケールまでの、幅広い、金属・セラミックス・インテリジェント材料などの物性・製造・加工・材料設計などを主に学習する

また、機械技術者としての実践力を身につけることも大変重要であり、そのために、実験や設計製作実習、製図、コンピュータプログラミング法などの実験・演習科目による実技の習得、技術者倫理や技術経営学などによる社会とのつながりの認識、および卒業研究をとおして自主性、計画遂行能力、論理的思考能力、コミュニケーション能力などの涵養をはかる。

機械工学科

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
[総合教育科目]										16	
総合教育科目 A		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
総合教育科目 B		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[外国語科目]										10	
College English I		2								1	◎ 英語6単位
College English II		2								1	◎
College English III			2							1	◎
College English IV			2							1	◎
College English V				2						1	◎
College English VI					2					1	◎
Advanced College English				-	-	-	-	-	-	-	
新修外国語基礎1・2		4								2	◎ 新修外国語4単位
新修外国語基礎3			2							1	◎ ドイツ語、フランス語、
新修外国語基礎4			2							1	◎ ロシア語、中国語、
新修外国語特修科目				-	-	-	-	-	-	-	◎ 朝鮮語のいずれか 1カ国語から
[健康スポーツ科学科目]										3	実習・講義から各1科目
健康運動科学		-	-	-	-	-	-	-	-	2	講義
体力トレーニング科学		-	-	-	-	-	-	-	-	2	講義
スポーツ実践科学		-	-	-	-	-	-	-	-	2	講義
健康スポーツ科学実習		-	-	-	-	-	-	-	-	1	実習
[基礎教育科目]										29	
線形代数 I		2								2	◎
線形代数 II			2							2	◎
解 析 I		2								2	◎
解 析 II			2							2	◎
解 析 III				2						2	◎
解 析 IV					2					2	○
応用数学 A				2						2	◎
応用数学 B					2					2	○
応用数学 C					2					2	
基礎物理学 I		4								4	◎
基礎物理学 II			4							4	○
基礎物理学 III				2						2	○
基礎物理学 IV					2					2	○
基礎物理学 IV-E					2					2	○
基礎物理学実験 I		(6)								3	△
基礎物理学実験 II					(6)					3	△

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
基礎物理化学 A		2								2	○
基礎有機化学		2								2	
基礎無機化学				2						2	
基礎化学実験 I					(6)					3	△
生物学概論 A				2						2	
生物学概論 D				2						2	
生物学実験 A				(4)						2	△
一般地球学 B - I		2								2	
一般地球学 B - II			2							2	
地球学実験 A				(4)						2	△
[ 専門教育科目 ]										76	
<専門基盤科目>											
基礎力学 I	加藤・川合	2								2	◎
基礎力学 II	中 谷		2							2	◎
材料力学 I	内 田	2								2	◎
材料力学 II	山 崎		2							2	◎
機械材料学	佐 藤		2							2	◎
流体工学	加 藤			2						2	◎
熱力学 I	西 村			2						2	◎
固体力学	山 崎				2					2	
工業数学 I	多 羅 間					2				2	
工業数学 II	多 羅 間					2				2	
工業数学 III	多 羅 間						2			2	
創成設計論	(鈴木)						2			2	
特別講義	(藤田・岡田・吉田)							2		2	
生産管理	(川 池)							2		2	
材料力学演習	内田・山崎	1	1							1	
機械工学演習 A	加藤・西村			(2)						1	
機械工学演習 B	川合・瀧山			(2)						1	
機械工学演習 C	脇本・伊與田				(2)					1	
技術者倫理	各教員							2		2	◎
職業指導	(米 田)							2	2	4	教職科目 (卒業単位に含めない)

# 機械工学科

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
<b>&lt;環境・エネルギー機械科目&gt;</b>											
機 械 設 計	川 合				2					2	◎
熱 力 学 II	西 村				2					2	
流 体 力 学 I	脇 本				2					2	
流 体 力 学 II	加 藤					2				2	
熱 シ ス テ ム 設 計 論	伊 與 田					2				2	
環 境 エ ネ ル ギ ー 工 学	西村・(脇坂)						2			2	
生 産 加 工 学 I	佐 藤					2				2	◎
生 産 加 工 学 II	川 上						2			2	
<b>&lt;システムダイナミクス科目&gt;</b>											
振 動 工 学	川 合			2						2	◎
制 御 工 学 I	瀧 山			2						2	◎
制 御 工 学 II	大 島				2					2	
数 値 計 算 法	逢坂・瀧山				2					2	
ロ ボ ッ ト 運 動 学	高田・今津					2				2	
メカトロニクス工学	今津・高田						2			2	
計 測 評 価 工 学	佐 伯					2				2	
知 的 材 料 工 学	逢 坂						2			2	
<b>&lt;マテリアルデザイン科目&gt;</b>											
材 料 基 礎 学 I	兼 子	2								2	◎
材 料 基 礎 学 II	(長 野)				2					2	
材 料 科 学	横 川			2						2	◎
セ ラ ミ ッ ク 材 料 学	横 川				2					2	
材 料 強 度 学	吉 岡			2						2	
固 体 電 子 論	(木 戸)					2				2	
固 体 分 析 学	兼 子						2			2	
材 料 デ ザ イ ン 学	岸 田						2			2	
<b>&lt;実践系科目&gt;</b>											
エ ン ジ ニ ア リ ン グ デ ザ イ ン	各 教 員		(2)							1	◎
コ ン プ ュ ー タ プ ロ グ ラ ミ ン グ 法	今津・高田			2						2	◎ 講義科目
機 械 製 図	(上 川)				(2)					1	◎
設 計 製 作 実 習	各 教 員					(8)	(4)			5	◎
機 械 工 学 実 験	各 教 員						(6)			2	◎
技 術 経 営 論	各 教 員						2			2	講義科目
卒 業 研 究	各 教 員							( )	( )	8	◎

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
<他学科提供科目>											
固 体 物 理 学 基 礎	中山(弘)									2	(電子・物理工学科提供)
電 気 ・ 電 子 材 料 学	白 藤									2	(電子・物理工学科提供)
結 晶 物 理 工 学	中山(弘)									2	(電子・物理工学科提供)
電 磁 気 学 I	細 田									2	(電子・物理工学科提供)
電 気 ・ 電 子 計 測 学	菜 嶋									2	(電子・物理工学科提供)
電 気 回 路 学 I	仕 幸									2	(電気情報工学科提供)
電 子 回 路 学 II	宮 崎									2	(電気情報工学科提供)
土 質 力 学 I	大島(昭)									2	(都市学科提供)
環 境 生 態 学	矢 持									2	(都市学科提供)
知 識 工 学	上 野									2	(電気情報工学科提供)
セ ン シ ン グ 工 学	辻 本									2	(電気情報工学科提供)
生 体 材 料 工 学	田 辺									2	(化学バイオ工学科提供)
高 分 子 材 料 工 学	堀 邊									2	(化学バイオ工学科提供)
【大阪府立大学単位互換科目】											詳細は別表参照

## 機械工学科

### 卒業に必要な単位【機械工学科】

全学共通科目	58 単位以上	
内訳	総合教育科目	16 単位以上
	基礎教育科目	29 単位以上 (必修科目16単位、準必修科目8単位以上、基礎教育科目の実験科目3単位以上を含む) 注1
	外国語科目	10 単位以上 (英語6単位、新修外国語4単位以上を含む) 注6
	健康スポーツ科学科目	3 単位以上 (講義2単位、実習1単位以上を含む)
専門教育科目	76 単位以上 (必修科目47単位、選択科目29単位以上を含む) 注2-5	
合計単位数	134 単位以上	

### 4年次進級に必要な単位

総単位数	110 単位以上
総合教育科目 基礎教育科目 外国語科目 健康スポーツ科学科目	合計 50 単位以上 (外国語科目10単位以上を含む)
専門教育科目	50 単位以上 (3年次までの専門科目の必修科目31単位以上を含む)

- ◎、○および△はそれぞれ必修科目、準必修科目および、基礎教育科目の実験科目を示す。
  - ◎ 必修科目 (選択した教育分野にかかわらず必ず履修すること)
  - 準必修科目
  - △ 基礎教育科目の実験科目
2. 専門科目のうち備考欄に◎がない科目は選択科目。(他学科提供科目、大阪府立大学単位互換科目を含む)
3. 2年次の後期から、環境・エネルギー機械、システムダイナミクス、マテリアルデザインの3つの教育分野のうちひとつを選択し、各分野の専門科目を重点的に履修する。選択した各分野の総単位16単位のうち、14単位(必修科目を含む)以上を修得しなければならない。
4. 基礎教育科目中、「基礎物理学IV」と「基礎物理学IV-E」については、どちらか一つを卒業・進級に必要な単位として含めることができる。
5. 他学科提供科目の履修には人数制限がつくことがある。
6. 職業指導(教職科目・4単位)は卒業に必要な単位数に含まれない。
7. TOEFL、TOEICで優秀な点数を得た者、あるいは実用英語技能検定1級または準1級資格者は英語科目を履修したものと見なされ、英語科目の単位を得ることができる。なお、本制度で単位認定を受けた学生は、余裕のできた時間を他科目の履修に充てることが望ましい。
- 7-1. 本制度により単位認定を受けることを希望する学生は、各学期の履修登録期間中に申請をしなければならない。
- 7-2. 4単位以下の単位認定はCE-I～CE-IVのうちの未修得科目の中から行う。  
なお、単位認定された英語科目を在学中に履修することはできない。
- 7-3. 単位認定の対象とする点数、資格は取得してから1年以内のものに限る。
- 7-4. 読み替え認定が可能な最大単位数と最低点を下表に示す。

	TOEFL	TOEIC	英検
6単位	iBT 88 (CBT230 PBT570)	800	1級
4単位	iBT 79 (CBT213 PBT550)	750	
3単位			準1級
2単位	iBT 69 (CBT193 PBT523)	650	

(TOEFL満点 iBT 120 CBT 300 PBT 677点)

8. 総合教育科目Bの科目群「自然と人間」内にある主題「現代の自然科学」は、単位を修得しても卒業・進級に必要な単位には含まれない。

## 電子・物理工学科における学習・教育目標とカリキュラム

### 理念

電子・物理工学科は電気工学，電子工学，応用物理学などの広い科学技術における先端技術の開拓に寄与すべく，それらの教育・研究を通じ，社会に必要なとされる優れた人材の育成と知の探求によって，日進月歩の高度技術社会をリードできる高い専門性・応用能力ならびに，科学技術者としての高い倫理性を兼ね備えた人材の育成と希望ある未来を拓く科学技術の創造を目指す。

### 学習・教育目標

電子・物理工学の扱う領域は種々の電磁気現象，電子工学，半導体工学，物性工学，物理光学，量子エレクトロニクス，レーザー工学，物性理論と多域に渡っており，これらを理解する上で必要となる基礎能力および技術を養成し，次世代のキーテクノロジーを開拓できる自立した科学技術者を育成するにあたり，以下の学習・教育目標を設定している。本学科のカリキュラムは，これらの学習・教育目標が達成できるように編成されている。

- (A) 専門分野を習得するための基礎学力を養うとともに，幅広い学問に接することで高い教養と広い視野を身につける。（高い教養と広い視野）
- (B) 科学技術分野に対する様々な広い見識を養うために，自然科学や数学の基礎知識を幅広く習得する。（自然科学の基礎知識）
- (C) 国際社会において，技術的な情報を受信・発信できるよう，語学力と表現能力を身につける。（語学的コミュニケーション能力）
- (D) 未知領域の開拓に向けての基礎を固めるために，電気電子工学と物理学の専門知識を習得する。（電子・物理工学の専門知識）
- (E) 自主的に課題を見つけ，修得した科学・技術の知識と情報を利用し，問題点の把握，グループワーク，発表と討論などを通じて，計画的に学習・研究を進めることによって解決を図る総合的能力を養う。（科学技術的コミュニケーション能力，課題遂行能力）
- (F) 社会に対して知識や技術を応用するに当たり，その専門家として取るべき姿勢を身につけるとともに，実務上の工学的課題と専門知識の関わりに対する理解を深める。（技術者倫理，実務技術）
- (G) 必ずしも解が一つでない課題に対して，種々の学問・技術を利用して実現可能な解を見出すために，自主的に達成の道筋を設定し，計画的に複数の学問・技術を総合応用して課題を達成できる能力を養う。（デザイン能力）

### カリキュラム

本学科のカリキュラムは，基礎科目と専門科目を段階的に習得できるように編成してあり，各学年に割り振られた講義・演習および実験・実習科目を順次履修することによって，電子・物理工学分野の技術者として必要な素養が備わるように配慮されている。そして，学部4年間の最終段階では，課題を理解して解決する能力，結果を整理して表現する能力，自ら考えて計画的に実践できる能力を身に付けて，電子・物理工学を専門とする自立した技術者に成長できるように計画されている。学生諸君自身は，これらの知識と能力を獲得すべく各科目群の学習に積極的に取り組み，卒業時には社会で活躍できる人材として巣立ち，将来は様々な分野において指導的役割を果たして欲しい。カリキュラムの具体的な構成は，各学習・教育目標に対応して以下のようになっている。

- (A) 専門分野を習得するための基礎学力の養成および、幅広い学問から高い教養と広い視野を身につけるために、教養科目（総合教育科目、健康スポーツ科目）を履修する。
- (B) 自然科学や数学の知識を広く一般的に得るために、基礎教育科目（線形代数、解析、応用数学、基礎物理学など）を学ぶ。
- (C) 外国語科目（英語、新修外国語）の履修および外書講読での発表・討論などを通して、国際社会において通用する語学力と表現能力を身につける。
- (D) 電子・物理工学の専門知識を習得するため、専門教育科目を学ぶ。当学科においては、電子・物理工学という分野に対する導入として電子・物理工学概論を学び、基礎教育科目を高度にした電磁気学、統計力学、工業数学、プログラミング言語を学習する。さらに、特に現代の科学技術を支える学問的基盤である量子力学、固体物理学、半導体工学、電気・電子回路学、電気電子材料学、電気電子計測工学、制御工学、物理光学、量子エレクトロニクス、パワーエレクトロニクスに関する科目を系統的に学習する。
- (E) 基礎教育科目における基礎物理学実験、および専門教育科目における電子・物理工学実験では、データの取得から解析までの一連の流れを体験的に学ぶことにより、基本的物理現象の理解・実験装置や器具の扱い方・実験結果の整理と評価法等を習得する。これらのことから、グループワーク、課題における問題点の把握、実験結果の討論、技術レポートの作成等、実験的課題を計画的に遂行するための総合力の基礎を養う。
- (F) 実務上の工学的課題と電子・物理工学の繋がりに対する理解を深めるために、科学技術に関わる専門職としての立場や責任、取るべき姿勢についての講義（技術者倫理）、技術経営、産学官連携や知的財産権についての講義（技術経営論）、および実務経験者による電子・物理工学分野関連業務における技術開発の現場と新需要の創造についての講義（電子・物理工学分野実務技術論）を履修する。
- (G) 電子・物理工学分野の未解決の課題に対して、複数の学問・技術を総合応用して解を見つけ出すデザイン能力を養成するために卒業研究を行う。なお、電子・物理工学実験は、卒業研究を遂行するための基礎能力を養う科目として位置付けられる。卒業研究にあたっては、さらに深く電子・物理工学の専門知識を追求するとともに、実験的・理論的技法も磨き、自身で主体的に新しいテーマに関する研究に取り組みつつ、担当教員や大学院学生との議論を重ねながら課題を遂行していく総合的能力を養う。

#### 授業科目表

授業科目表中の◎は、必修科目を表す。A、Bは、準必修科目を表す

## 履修条件と履修上の注意

### (1) 卒業条件（最低単位数）

全学 共通 科目	63 単位	総合教育科目	16 単位	
		基礎教育科目	34 単位	必修 26 単位，準必修 A より 6 単位以上を含む
		外国語科目	10 単位	英語 6 単位，新修外国語 4 単位を含む
		健康 スポーツ科学	3 単位	
専門 教育 科目	67 単位	必修 38 単位，準必修 B より 23 単位以上を含む		
合計	130 単位			

### (2) 4 年次への進級条件（最低単位数）

全学 共通 科目	59 単位	基礎教育科目（必修と準必修科目を合わせて 30 単位以上）， 外国語科目 8 単位以上を含む		
専門 教育 科目	45 単位	必修と準必修を合わせて 39 単位以上を含む		
合計	104 単位			

### (3) その他

- 総合教育科目 B の科目群「自然と人間」内にある主題「現代の自然科学」は，単位を修得しても卒業・進級に必要な単位には含まれない。
- 職業指導（教職科目 4 単位）は卒業に必要な単位には含まれない。
- 他学科提供科目の履修は，人数制限が付くことがある。
- 大阪府立大学単位互換科目は，必修・準必修以外の専門科目と同等の取扱いとなる。

電子・物理工学科

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
[総合教育科目]										16	
総 合 教 育 科 目 A		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
総 合 教 育 科 目 B		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
[外国語科目]										14	
College English I		2								1	◎ 英語6単位必修
College English II		2								1	◎
College English III			2							1	◎
College English IV			2							1	◎
College English V				2						1	◎
College English VI					2					1	◎
新修外国語基礎1・2		4								2	◎新修外国語4単位必修
新修外国語基礎3			2							1	◎
新修外国語基礎4			2							1	◎ドイツ語、フランス語
新修外国語特修				—	—	—	—	—	—	—	ロシア語、中国語、朝鮮語 のいずれか1ヶ国語から 特修は必修科目履修者 のみ受講可能
[健康スポーツ科学科目]										3	実技・理論から各1科目
健康運動科学論		—	—	—	—	—	—	—	—	2	理論
体力トレーニング科学論		—	—	—	—	—	—	—	—	2	理論
スポーツ実践科学論		—	—	—	—	—	—	—	—	2	理論
健康スポーツ科学実習		—	—	—	—	—	—	—	—	1	実技
[基礎教育科目]										—	
線 形 代 数 I		2								2	◎
線 形 代 数 II			2							2	◎
解 析 I		2								2	◎
解 析 II			2							2	◎
解 析 III				2						2	A
解 析 IV					2					2	A
応 用 数 学 A				2						2	A
応 用 数 学 B					2					2	A
応 用 数 学 C					2					2	A
基礎物理学 I		4								4	◎
基礎物理学 I - A			2							2	◎
基礎物理学 II			4							4	◎
基礎物理学 II - A				2						2	
基礎物理学 III				2						2	◎
基礎物理学実験 I			(6)							3	◎
基礎物理学実験 II				(6)						3	◎



電子・物理工学科

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
電 子 回 路 学 II	宮 崎					2				2	B(電気情報提供)
電 気 回 路 学 II	仕 幸					2				2	B(電気情報提供)
電 磁 気 学 II	金					2				2	B
統 計 力 学 II	寺 井					2				2	B
物 理 光 学	金					2				2	B
技 術 者 倫 理	各 教 員					2				2	◎
電子・物理工学実験 I	各 教 員					(6)				2	◎
電 気・電 子 材 料 学	白 藤						2			2	B
結 晶 物 理 工 学	中 山(弘)						2			2	B
量 子 エレ ク ト ロ ニ ク ス	竹 内						2			2	B
半 導 体 工 学 II	中 山(正)						2			2	B
電 気・電 子 計 測 学	菜 嶋						2			2	B
情 報 工 学 基 礎	(岡 本)						2			2	
技 術 経 営 論	各 教 員						2			2	
光 デ バ イ ス	向 井						2			2	(電気情報提供)
パ ワー エレ ク ト ロ ニ ク ス	重 川						2			2	B
応 用 物 理 光 学	(小 野)						2			2	B
電子・物理工学実験 II	各 教 員						(6)			2	◎
電子・物理工学分野実務技術論	(非 常 勤)						2			2	B
卒 業 研 究	各 教 員							( )	( )	8	◎
電子・物理工学関係外書講読	各 教 員							2		2	◎
電子・物理工学特別講義	(非 常 勤)							2		2	
職 業 指 導	(米 田)							2	2	4	教職科目
【大阪府立大学単位互換科目】											詳細は別表参照

# 電気情報工学科

## 教育理念

電気情報工学は「情報の生成、伝達、変換、認識、利用などの観点から、その性質、構造、論理を探求する学問、およびその具体化を行う計算機を中心とする情報機器および情報システムのハードウェア、ソフトウェアの理論と実際に関する学問分野」であり、現代社会の産業基盤、生活基盤として欠くことのできない技術となっています。電気情報工学は、電気・電子工学、通信工学、計算機科学などを基礎とし、これら幅広い科学技術を複合化し、新たな先端技術領域を産み出しています。電気情報工学科では、電気工学と情報工学の教育・研究を通じ、情報通信技術が社会に及ぼす影響を配慮し、時代の要請に応え得る、電気・情報・通信関係の広範囲な問題に対する適応能力を習得し、さらに、未知の問題を自らの手で解決していく自主性と独創性を持った人材の育成を目指しています。

## 学習・教育目標

電気情報工学科では、電気・電子回路、情報通信デバイス、コンピュータ、情報処理、通信、制御などの幅広い関連技術を基礎とし、次世代の高度情報化社会の実現を目指し、新設計コンセプトに基づく情報技術を開拓できる自立した技術者・研究者の育成を目標とします。

- (A) 総合的技術評価能力： 地球的かつ歴史的な視点から技術を評価できる見識
- (B) 技術的コミュニケーション能力： 語学力と論理的表現力の基づくプレゼンテーションとコミュニケーションの技術
- (C) コンピュータリテラシ： 情報処理ツールとしてのコンピュータを使いこなし、文書作成や情報収集を行う基礎的な技術
- (D) 基礎理論の理解とその応用： 計算機科学、情報通信デバイス工学、情報処理工学、情報通信工学の基礎となる諸理論を理解し、抽象化を通して多面的に応用する能力
- (E) 情報通信デバイスの基礎技術： 光演算デバイス、マイクロ波アンテナデバイス、情報入出力デバイスなど情報通信デバイスを設計・解析する能力
- (F) 情報処理システム構築： コンピュータに代表される情報処理システムをモデル化して解析し、設計する能力
- (G) 通信ネットワークシステム構築： インターネットに代表される通信ネットワークシステムをモデル化して解析し、設計する能力
- (H) 問題点の発見とその解決手法の開発： 社会のニーズを理解して問題点を発見する能力、およびその本質を抽象化して解決手法を考案する能力

## カリキュラムの概要

技術の進化が著しい電気情報工学分野では、特定の分野に対する専門的な知識だけでなく、関連する学際分野への応用力、他分野との連携を含めた高度な思考力が要求されます。そしてこのような応用力を身につけるためには、数学、物理学をはじめとする基礎的学力が必要不可欠です。さらに、ネットワークを通じグローバルな活躍が期待される情報通信技術者には、英語をはじめとする国際的なコミュニケーション能力を必要とします。一方、専門知識を持った技術者は、社会的、歴史的視野から技術者を評価する能力を持つことが要求され、技術知識と同時に幅広い教養と高い倫理性が求められます。

電気情報工学科のカリキュラムは、以上の社会的人材育成要求に十分対応し、4年間で電気情報関連分野の技術者として自立できるように配慮され、さらに高度な大学院教育を受ける基礎教育としても十分な内容を持っています。カリキュラムの具体的な構成は以下の通りです。

(1) 総合教育科目（人文・社会科目）および健康スポーツ科目を提供し、高い教養と幅広い視野を身につける。また、技術者倫理により高い倫理性を養う。

(2) 数学（線形代数、解析）および基礎物理学などの基礎教育科目を提供し、工学の技術者として必須の自然科学分野における基礎学力を養成する。

(3) 外国語科目および卒業研究を通じ、国際的な視野、グローバルな語学力およびコミュニケーション能力、表現能力を身につける。

(4) 電気情報工学の専門的な知識を取得するため、電気工学、情報処理工学および情報通信工学に関連する専門教育科目（講義、実験・演習）を提供する。実験および演習は1年次から3年次まで継続して多くの時間を割り当て、講義で習得した知識の具体化・深化させ、思考力・洞察力を養う。

(5) 卒業研究を行い、自ら設定した未解決な研究課題のもと、問題解決に必要とされる専門知識の集積と論理的展開能力を駆使し、課題を解決して成果をまとめることができる総合的能力を養う。

電気情報工学科

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
[総合教育科目]										16	
総 合 教 育 科 目 A		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
総 合 教 育 科 目 B		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[外国語科目]										10	
College English I		2								1	◎必修
College English II		2								1	◎必修
College English III			2							1	◎必修
College English IV			2							1	◎必修
College English V				2						1	◎必修
College English VI					2					1	◎必修
新修外国語基礎1・2		4								2	新修外国語4単位
新修外国語基礎3			2							1	ドイツ語、フランス語
新修外国語基礎4			2							1	ロシア語、中国語、朝鮮語 いずれか1カ国語から
[健康スポーツ科学科目]										3	実技・理論より各1科目
健 康 運 動 科 学		-	-	-	-	-	-	-	-	2	講義
体 力 ト レ ー ニ ン グ 科 学		-	-	-	-	-	-	-	-	2	講義
ス ポ ー ツ 実 践 科 学		-	-	-	-	-	-	-	-	2	講義
健 康 ス ポ ー ツ 科 学 実 習		-	-	-	-	-	-	-	-	1	実習
[基礎教育科目]											
線 形 代 数 I		2								2	◎必修
線 形 代 数 II			2							2	◎必修
解 析 I		2								2	◎必修
解 析 II			2							2	◎必修
解 析 III				2						2	修得が強く望まれる科目
解 析 IV					2					2	修得が強く望まれる科目
応 用 数 学 A				2						2	修得が強く望まれる科目
応 用 数 学 B					2					2	修得が強く望まれる科目
応 用 数 学 C					2					2	修得が強く望まれる科目
基 礎 物 理 学 I		4								4	物理科目
基 礎 物 理 学 II			4							4	修得が強く望まれる科目
基 礎 物 理 学 III				2						2	物理科目
基 礎 物 理 学 IV - E					2					2	物理科目
基 礎 物 理 学 実 験 I		(6)								3	◎必修
基 礎 物 理 学 実 験 II				(6)						3	物理科目
基 礎 物 理 化 学 A			2							2	化学科目

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
基 礎 無 機 化 学				2						2	化学科目
基 礎 化 学 実 験 I				(6)						3	化学科目
図 形 科 学 I				2						2	図学科目
図 形 科 学 II					2					2	図学科目
[専門教育科目]											
工業数学Ⅰ	多 羅 間					2				2	科目群A
工業数学Ⅱ	多 羅 間			2						2	科目群A
工業数学Ⅲ	多 羅 間				2					2	科目群A
情報数学	原	2								2	科目群A
情報理論	原			2						2	科目群A
デジタル信号処理	杉山				2					2	科目群A
システム制御工学	辻本						2			2	科目群A
プログラミング言語	杉山	2								2	科目群B
データ構造とアルゴリズム	中島		2							2	科目群B
オブジェクト指向プログラミング	未定				2					2	科目群B
ソフトウェア設計論	未定					2				2	科目群B
データベース論	上野						2			2	科目群B
グラフィック処理概論	未定						2			2	科目群B
アルゴリズムと計算量	中島						2			2	科目群B
電子回路学Ⅰ	高橋			2						2	科目群C
電気回路学Ⅰ	仕幸			2						2	科目群C
論理設計	岡				2					2	科目群C
電子回路学Ⅱ	宮崎					2				2	科目群C
電気回路学Ⅱ	仕幸					2				2	科目群C
電磁気学Ⅰ	細田				2					2	科目群C 電子・物理提供
計算理論	鳥生				2					2	科目群D
言語処理工学	中島					2				2	科目群D
パターン認識工学	鳥生					2				2	科目群D
知識工学	上野						2			2	科目群D
オペレーティング・システム	田窪						2			2	科目群D
符号理論	辻岡			2						2	科目群E
情報伝送論	原				2					2	科目群E
ネットワーク論	阿多				2					2	科目群E
通信理論	岡					2				2	科目群E
光エレクトロニクス	向井					2				2	科目群F
センシング工学	辻本					2				2	科目群F
光情報工学	宮崎						2			2	科目群F

# 電気情報工学科

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
光デバイス	向井						2			2	科目群F
電子画像工学	高橋						2			2	科目群F
応用情報Ⅰ	(篠浦)				2					2	
応用情報Ⅱ	(柳澤・井桁・テイテイ)					2				2	
応用情報Ⅲ	(富田・三嶋・前谷)						2			2	
電気電子応用Ⅰ	(石川・水科・角矢)					2					
電気電子応用Ⅱ	(宇佐見・荒木・西村)						2			2	
固体物理学基礎	中山(弘)									2	電子・物理提供
量子力学Ⅰ	杉田									2	電子・物理提供
統計力学Ⅰ	寺井									2	電子・物理提供
物理光学	金									2	電子・物理提供
半導体工学Ⅰ	中山(正)									2	電子・物理提供
職業指導	(米田)							2	2	4	教職科目
技術経営論	各 教 員						2			2	
技術者倫理	各 教 員					2				2	◎必修
プログラミング演習Ⅰ	杉山	(4)								2	◎必修
プログラミング演習Ⅱ	田窪		(4)							2	◎必修
プログラミング演習Ⅲ	阿多			(4)						2	◎必修
プログラミング演習Ⅳ	未定				(4)					2	◎必修
プログラミング演習Ⅴ	阿多					(4)				2	◎必修
プログラミング演習Ⅵ	辻岡・上野						(4)			2	◎必修
電気情報工学実験Ⅰ	仕幸・宮崎・田窪			(4)						2	◎必修
電気情報工学実験Ⅱ	岡				(4)					2	◎必修
電気情報工学実験Ⅲ	辻岡					(4)				2	◎必修
電気情報工学実験Ⅳ	辻岡						(4)			2	◎必修
卒業研究	各 教 員							( )	( )	10	◎必修

卒業および4年次進級に必要な単位数

科目名		提供 単位数	卒業に必要な 単位数		4年次進 学に必要な 単位数	備考	
全学 共通 科目  注1)	総合教育科目		16		42		
	基礎 教育 科目  注1)	基礎物理学実験Ⅰ	3	3		か つ  53	◎必修
		線形代数Ⅰ,Ⅱ	4	4			◎必修
		解析Ⅰ,Ⅱ	4	4			◎必修
		解析Ⅲ,Ⅳ	4				履修が強く望まれる
		基礎物理学Ⅱ	4				履修が強く望まれる
		応用数学A, B, C	6	13			
		物理科目	13				
		化学科目	7				
		図学科目	4				
	外国語科目		10				
健康スポーツ科目		3					
専門 教育 科目  注2)	必修 科目	演習および実験	20	20	12	◎必修	
		その他必修科目	12	12		◎必修（技術者倫理、卒業研究）	
	選択 必修 科目  注2)	科目群A	14	4	か つ  44	46	科目群A～科目群Fそれぞれについて4単位以上取得すること
		科目群B	14	4			
		科目群C	12	4			
		科目群D	10	4			
		科目群E	8	4			
		科目群F	10	4			
選択科目	20	—					
合計単位数			129		100		

(注1) 基礎教育科目については、基礎物理学実験Ⅰ、線形代数Ⅰ、Ⅱ、解析Ⅰ、Ⅱを必修とし、解析Ⅲ、Ⅳ、基礎物理学Ⅱの3科目（8単位）はすべて修得しておくことが強く望まれる。これらの科目を含め、応用数学A、B、Cの3科目（6単位）、物理科目4科目（11単位）、化学科目3科目（7単位）、図形科目2科目（4単位）の中から合計24単位以上を修得すること。

(注2) 電気情報専門教育科目は、必修科目32単位の他に44単位以上修得すること。合計76単位を卒業必要単位数とする。また、科目群A-Fのそれぞれの群において、4単位以上を修得すること。

その他 他学科提供科目の履修は人数制限がつくことがある。

職業指導（教職科目・4単位）は、進級に必要な単位数、卒業に必要な単位数に含めない。

◎印は必修科目を表す。

# 化学バイオ工学科

## 教育理念

文明社会の持続的発展と地球環境保全の両立という強い社会的要請のもと、高度な専門知識だけでなく、科学技術が社会に及ぼす影響について地球的規模で総合的に洞察し、みずから適切に判断できる能力を備えた専門技術者・研究者の養成が求められている。これに応えるべく、化学バイオ工学科は、化学・生命科学の基礎ならびに専門学力の充実、技術者・研究者としての人間力養成、研究能力開発に主眼をおいた教育カリキュラムを整備し、化学・生命科学の原理や方法に基づき、原子や分子あるいは遺伝子や細胞の世界から人々の生活に役立つマテリアルや技術を創り出す「ものづくり」を目指した教育を行う。

## 教育概要

1年次および2年次前期は主として化学と生命科学に関する基本的な専門教育科目（講義16科目；演習2科目）を提供する。1年次前期の化学バイオ工学概論は、化学と生命科学について学ぶための導入科目であり、化学と生命科学を両面から学ぶ意義について講義する。また、化学バイオ工学論では、化学と生命科学の科学的・技術的接点について講義する。化学バイオ工学演習Ⅰ、Ⅱは、論文読解力、発表力、報告書作成力などを高めるための科目として提供する。

2年次後期は、化学系および生命科学系の専門教育科目（講義10科目）を導入する。2年次後期までに提供する科目は、すべての学生が一律に履修可能である。さらに2年次後期は、3年次以降に重点をおいて履修する学問分野、すなわち化学および生命科学のいずれかの学問分野をより深く学ぶための準備期間とする。

3年次には、化学および生命科学のいずれかの学問分野をより深く学ぶことができるように、化学バイオ工学の専門教育科目（講義23科目；実験4科目；演習4科目）を提供する。4年次には、化学バイオ工学特論Ⅰ、Ⅱおよび卒業研究Ⅰ、Ⅱを提供し、卒業研究を指導する。

本教育課程では、化学と生命科学をそれぞれ網羅的に学ぶだけではなく、1年次、2年次に、これらを同時に習得する意義と両者に共通する基礎科目をしっかりと学び、学年次の進行と共に、学生が志望する進路に合わせて、化学と生命科学のいずれかの専門性を高めることができるよう配慮している。1年次、2年次には、自立した技術者・研究者になるための基本力を身につけるための演習科目も配置している。これによって、化学と生命科学を基盤とする基礎学力に優れた卒業生を社会に送り出すことができる。また、本学大学院工学研究科化学生物系専攻へ進学することによって、研究・開発能力をより一層向上させ、高い専門性を持った技術者・研究者への道が開ける。

## 学習教育目標

具体的には、以下の学習教育目標を設定する。化学バイオ工学科の学生は、これらの目標を達成するため、本冊子に記載の履修規則を十分に理解した上で4年間の履修内容を計画・立案し、実行すること。

(A) 技術者・研究者としての倫理を尊重できる人材の育成

科学技術が環境, 社会, 資源, 安全性にどのような影響を及ぼすかを理解できると共に, 技術者・研究者としての責任を自覚し, 行動し得る素養, さらに自国並びに他国の文化, 社会, 経済を理解し, 物事を地球的・国際的視点から考え得る素養を育成する。

(B) 工学基礎知識の修得

数学, 物理, 情報および工学技術に関する基礎知識を自主的・継続的に学習し, 問題解決に利用できる能力を育成する。

(C) 専門知識の修得

物理化学, 有機化学, 無機化学, 分析化学, 高分子化学, 生化学, 分子生物学, 細胞生物学, 微生物学の基礎知識を自主的, 継続的に学習できる能力, および化学工学の基礎知識を自主的, 継続的に学習できる能力を獲得したうえで, 化学もしくは生命科学に関する専門知識と実験技術を習得し, それらをもとに問題を解決できる能力を育成する。

(D) データの収集, 解析, およびその結果を出力する能力を持った人材の育成

社会あるいは自身を取り巻く状況の変化や必要に応じて, 幅広い学習を自主的, 継続的に行い得る能力, 技術者・研究者として与えられた課題を経済性, 安全性, 信頼性および社会や環境への影響を考慮し, それらの解決のためにデータを収集し解析する能力, さらに得られた結果を正確に伝達するために日本語により理論的に記述できる能力, プレゼンテーションできる能力, および日本語, 英語を問わずコミュニケーションできる能力を育成する。

(E) 問題を解決する能力を持った人材の育成

自ら積極的に社会の要求や問題を見出し, それらを基礎および専門知識を総合して分析し, 解決, 設計, 提案する能力, さらに技術的および社会的な制約の下で仕事を計画的, 継続的に遂行し, 完成させ得る自立した技術者・研究者となるための能力を育成する。

化学バイオ工学科

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
<b>【総合教育科目】</b>										12	
総 合 教 育 科 目 A		—	—	—	—	—	—	—	—	—	「生命と人間」を除く
総 合 教 育 科 目 B		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
<b>【外国語科目】</b>										10	
College English I		2								1	◎英語6単位
College English II		2								1	◎
College English III			2							1	◎
College English IV			2							1	◎
College English V				2						1	◎
College English VI					2					1	◎
新 修 外 国 語 基 礎 1・2		4								2	新修外国語4単位(ドイツ語、
新 修 外 国 語 基 礎 3			2							1	フランス語、ロシア語、中国語、
新 修 外 国 語 基 礎 4			2							1	朝鮮語いずれか1カ国語から)
<b>【健康・スポーツ科学科目】</b>										3	講義・実習より各1科目
健 康 運 動 科 学		—	—	—	—	—	—			2	講義
体 力 ト レ ー ニ ン グ 科 学		—	—	—	—	—	—			2	講義
ス ポ ー ツ 実 践 科 学		—	—	—	—	—	—			2	講義
健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 実 習		—	—	—	—	—	—			1	実習
<b>【基礎教育科目】</b>										23	
<b>[基礎教育科目・数学系科目群]</b>										6	数学系科目群から6単位以上
線 形 代 数 I		2								2	●推奨
線 形 代 数 II			2							2	
解 析 I		2								2	●推奨
解 析 II			2							2	
解 析 III				2						2	
解 析 IV					2					2	
応 用 数 学 A				2						2	●推奨
応 用 数 学 B					2					2	
応 用 数 学 C						2				2	
<b>[基礎教育科目・物理系科目群]</b>										4	物理系科目群から4単位以上
入 門 物 理 学 I		2								2	注1
入 門 物 理 学 II			2							2	注1
基 礎 物 理 学 I - E		2								2	
基 礎 物 理 学 II - E			2							2	
基 礎 物 理 学 III				2						2	
基 礎 物 理 学 IV - E					2					2	

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
[基礎教育科目・生物系科目群]										4	生物系科目群から4単位以上
総合教育科目A「生命と人間」科目群		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
生 物 学 概 論 A			2							2	
[基礎教育科目・実験科目群]										7	実験科目群から7単位以上
基 礎 化 学 実 験 I		(6)								3	◎注2
基 礎 化 学 実 験 II				(6)						3	注2
生 物 学 実 験 A				(4)						2	注2
生 物 学 実 験 B			(4)							2	◎注2
基 礎 物 理 学 実 験 I			(6)							3	注2
[専門教育科目]											
[物理化学・化学工学系科目群]										6	物理化学・化学工学系科目群から6単位以上
物 理 化 学 序 論	小島・米谷	2								2	
物 理 化 学 I	米谷		2							2	
物 理 化 学 II	辻・五十嵐			2						2	
物 理 化 学 III	辻				2					2	
電 気 化 学	有吉					2				2	
応 用 物 理 化 学	米谷					2				2	
演 習 物 理 化 学	佐藤						2			2	
化 学 工 学 I	大嶋			2						2	
化 学 工 学 II	(井上)				2					2	
生 物 化 学 工 学	大嶋					2				2	
[有機・高分子系科目群]										6	有機・高分子系科目群から6単位以上
有 機 化 学 I	南	2								2	
有 機 化 学 II	長崎		2							2	
有 機 化 学 III	畠中			2						2	
有 機 化 学 IV	南				2					2	
有 機 合 成 化 学	南					2				2	
有 機 工 業 化 学	畠中						2			2	
高 分 子 材 料 工 学	堀邊				2					2	
高 分 子 化 学 I	堀邊・佐藤					2				2	
高 分 子 化 学 II	堀邊						2			2	
機 能 材 料 化 学	小島						2			2	
[生化・細胞生物学系科目群]										6	生化・細胞生物学系科目群から6単位以上
生 物 科 学 入 門	立花(太)	2								2	
生 化 学 I	立花(亮)		2							2	
生 化 学 II	北村			2						2	

# 化学バイオ工学科

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
蛋 白 質 科 学	北村・中西					2				2	
遺 伝 子 工 学	田辺					2				2	
展 開 バ イ オ 工 学	大嶋						2			2	
分 子 生 物 学	北村			2						2	
細 胞 生 物 学	立花(太)				2					2	
微 生 物 学	東(雅)				2					2	
細 胞 工 学 I	東(雅)					2				2	
細 胞 工 学 II	東(雅)・田辺					2				2	
生 体 材 料 工 学	田辺						2			2	
医 薬 品 科 学	中西・立花(太)						2			2	
[ 無 機 ・ 分 析 系 科 目 群 ]										6	無機・分析系科目群から6単位以上
無 機 化 学 I	有吉		2							2	
無 機 化 学 II	有吉			2						2	
無 機 化 学 III	小槻				2					2	
無 機 構 造 化 学	有吉					2				2	
無 機 工 業 化 学	小槻						2			2	
分 析 化 学 I	小畠			2						2	
環 境 分 析 化 学	(竹中)				2					2	
分 析 化 学 II	東(秀)					2				2	
物 理 分 析 化 学	辻						2			2	
バ イ オ 工 学 実 験 法	立花(亮)						2			2	
[ 工 学 系 科 目 群 ]										6	工学系科目群から6単位以上
化 学 バ イ オ 工 学 概 論	各教員	2								2	◎
化 学 バ イ オ 工 学 論	大嶋・長崎・南				2					2	
デ ー タ 処 理	(岡本)			2						2	
都 市 環 境 学	東(雅)				2					2	
安 全 工 学 概 論	(安田)					2				2	
技 術 者 倫 理	各教員					2				2	◎
[ 実 験 ・ 演 習 系 科 目 群 ]										10	
化 学 バ イ オ 工 学 演 習 I	佐藤・五十嵐		(2)							1	◎
化 学 バ イ オ 工 学 演 習 II	有吉・中西			(2)						1	◎
バ イ オ 工 学 実 験 I	各教員					(6)				3	○ (注3)
バ イ オ 工 学 実 験 II	各教員						(6)			3	○ (注3)
応 用 化 学 実 験 I	各教員					(6)				3	○ (注3)
応 用 化 学 実 験 II	各教員						(6)			3	○ (注3)
化 学 英 語 演 習	佐藤						(2)			1	○ (注4)
バ イ オ 英 語 演 習	各教員						(2)			1	○ (注4)

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
情 報 化 学 演 習	小畠・南・有吉						(2)			1	○ (注5)
情 報 バ イ オ 演 習	東(秀)・中西						(2)			1	○ (注5)
[ 卒 業 研 究 ]										14	
化 学 バ イ オ 工 学 特 論 I	各教員							2		2	◎
化 学 バ イ オ 工 学 特 論 II	各教員								2	2	◎
卒 業 研 究 I	各教員							5		5	◎
卒 業 研 究 II	各教員								5	5	◎
技 術 経 営 論	各教員						2			2	
職 業 指 導	(米田)							2	2	4	教職科目

履修方法

1. 卒業に必要な単位は135単位である。ただし、下記の科目群から指定の単位を修得すること。

- ◆総合教育科目 12単位(ただし「生命と人間」科目群は除く)
- ◆外国語科目 10単位
- ◆健康・スポーツ科学科目 3単位
- ◆基礎教育科目 23単位以上
  - 数学系科目群 6単位以上
  - 物理系科目群 4単位以上
  - 生物系科目群 4単位以上(総合教育科目群A「生命と人間」科目群を含む)
  - 実験科目群 7単位以上
- ◆専門教育科目 76単位以上
  - 必修科目(一部選択必修も含む) 28単位
    - 実験・演習系科目 10単位
    - 技術者倫理と化学バイオ工学概論 4単位
    - 卒業研究と特論 14単位
  - 上記以外の専門科目 48単位以上
    - 物理化学・化学工学系科目 6単位以上
    - 有機・高分子系科目 6単位以上
    - 生化・細胞生物学系科目 6単位以上
    - 無機・分析系科目 6単位以上
    - 工学系科目 2単位以上

(注1) 入門物理学 I 及び II は高校で「物理」を履修しなかった者を対象とする。

(注2) 基礎化学実験 I と生物学実験Bを必修とし、実験科目群で合計7単位以上修得すること。

(注3) 応用化学実験 I, 応用化学実験 II, バイオ工学実験 I, バイオ工学実験 II を選択必修とする。

ただし、応用化学実験 I と応用化学実験 II, あるいはバイオ工学実験 I とバイオ工学実験 II の組み合わせでどちらかを選択し、2科目の履修を必修とする。

(注4) 化学英語演習とバイオ英語演習のいずれかを選択必修とする。

(注5) 情報化学演習と情報バイオ演習のいずれかを選択必修とする。

2. 4年次進級には下記の単位の修得が最低必要である。

- ◆総合教育科目 10単位(ただし「生命と人間」科目群は除く)
- ◆外国語科目 8単位
- ◆健康・スポーツ科学科目 3単位
- ◆基礎教育科目 23単位
- ◆専門教育科目 62単位以上(実験・演習系科目10単位を含むこと)

3. 職業指導(教職科目・4単位)と技術経営論は卒業・進級に必要な単位に含まれない。

4. ◎印は必修科目, ○印は選択必修科目を示す。●印は推奨科目を表し, 履修することが望ましい。

5. 他学科科目の履修はあらかじめ担当教員の許可を得ること。また人数制限がつくことがある。

6. TOEFL, TOEICで優秀な点数を得た者, あるいは実用英語技能検定1級または準1級資格者は英語科目を履修したものと見なされ, 英語科目の単位を得ることができる。

なお, 本制度で単位認定を受けた学生は, 余裕のできた時間を他科目の履修に充てることが望ましい。

6-1. 本制度により単位認定を受けることを希望する学生は, 各学期の履修登録期間中に申請をしなければならない。

6-2. 読み替え科目には既修得英語科目を除外し未履修英語科目を優先して決める。なお, 単位認定された英語科目を在学中に履修することはできない。

6-3. 単位認定の対象とする点数, 資格は取得してから1年以内のものに限る。

(1年次学生では本学入学以前のものも含まれる)

6-4. 読み替え認定が可能な単位数と最低点を下表に示す。

認定される単位数	TOEFL	TOEIC	英検
6単位	iBT 88 (CBT230 PBT570)	800	1級
4単位	iBT 79 (CBT213 PBT550)	750	
3単位			準1級
2単位	iBT 69 (CBT193 PBT523)	650	

(TOEFL iBT 満点120点 CBT 満点300点 PBT 満点677点)

6-5. 詳細なルールに関しては, 教務委員に相談の上, 確認すること。

7. 総合教育科目Bの科目群「自然と人間」内にある主題「現代の自然科学」は, 単位を修得しても卒業・進級に必要な単位には含まれない。

## 建築学科 教育目標

### 持続可能な人間そして社会の生活空間を創造する総合建築教育

本学科は「総合的な建築教育」をめざしています。地球環境時代を迎えて、建築は新しい局面に直面しています。これまでのようなスクラップアンドビルド(壊して造る)ではなく、省エネルギーや既存の建築資産の活用を考慮した持続可能なデザイン、すなわち工学・技術・芸術に立脚した人文・社会領域にまたがる要求に総合的に対応する能力が求められています。そこで本学科では、設計・計画、環境・設備、構造・材料、防災の各専門領域を通じて総合的な学習・教育を実施し、持続可能な社会の生活空間を創造できるデザイナー、エンジニアの育成を目指しており、次の(A)～(F)の学習・教育目標を設定しています。

- (A) 技術者としての人類社会と自然環境に対する自覚と責任を理解する能力
- (B) 数学、情報技術を含む工学基礎知識とその応用能力
- (C) 国際コミュニケーション基礎能力
- (D) 建築学および関連分野の基礎知識の修得
- (E) 建築学および関連分野の専門知識とその応用能力
- (F) 持続可能な生活空間を創造できるデザイン、エンジニアリング能力

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
<b>[総合教育科目]</b>										18	
総合教育科目A		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
総合教育科目B		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
<b>[外国語科目]</b>										12	
College English I		2								1	◎ 英語6単位
College English II		2								1	◎
College English III			2							1	◎
College English IV			2							1	◎
College English V				2						1	◎
College English VI					2					1	◎
新修外国語基礎1・2		4								2	◎ 新修外国語4単位
新修外国語基礎3			2							1	◎ ドイツ語 フランス語
新修外国語基礎4			2							1	◎ ロシア語 中国語 朝鮮語
新修外国語特修				—	—	—	—	—	—	2	のいずれか1カ国語
<b>[健康スポーツ科学科目]</b>										3	実習・講義から各1科目
健康運動科学		—	—	—	—	—	—	—	—	2	講義
体カトレーニング科学		—	—	—	—	—	—	—	—	2	講義
スポーツ実践科学		—	—	—	—	—	—	—	—	2	講義
健康スポーツ科学実習		—	—	—	—	—	—	—	—	1	実習

# 建築学科

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
[基礎教育科目]											
線形代数Ⅰ		2								2	◎
線形代数Ⅱ			2							2	◎
解析Ⅰ		2								2	○※1 ※1から4単位以上
解析Ⅱ			2							2	○※1
解析Ⅲ				2						2	○※1
解析Ⅳ					2					2	○※1
応用数学A				2						2	○※1
応用数学B					2					2	○※1
応用数学C					2					2	○※1
基礎物理学Ⅰ		4								4	◎
基礎物理学Ⅱ-E			2							2	
基礎物理学Ⅲ				2						2	
基礎物理学Ⅳ								2		2	Ⅳ, Ⅳ-Eいずれか
基礎物理学Ⅳ-E								2		2	Ⅳ, Ⅳ-Eいずれか
基礎物理学実験Ⅰ			(6)							3	実験科目
基礎物理化学A			2							2	
基礎物理化学B			2							2	
基礎有機化学		2								2	
基礎無機化学				2						2	
基礎分析化学				2						2	
基礎化学実験Ⅰ		(6)								3	実験科目
生物学概論A		2								2	
生物学概論B			2							2	
生物学概論C					2					2	
生物学概論D								2		2	
生物学実験A				(4)						2	実験科目
一般地球学B-I		2								2	
一般地球学B-II			2							2	
地球学実験B					(4)					2	実験科目
建設地学					2					2	○※1
建設地学実習					(2)					1	○※1
図形科学Ⅰ		2								2	◎
図形科学Ⅱ			2							2	◎

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
<b>[専門教育科目]</b>											
建築プロジェクトスタディ	各 教 員	2	2							2	○隔週
建築基礎製図	各教員・(菅)			(4)						2	○
建築設計演習Ⅰ	各 教 員				(6)					2	○(集中講義)
建築設計演習Ⅱ	各 教 員					(12)				3	○(集中講義)
建築設計演習Ⅲ	各 教 員						(12)			3	○(集中講義)
建築設計特別演習	各 教 員							(12)		3	○(集中講義)
現代建築フォーラム	各 教 員						2			2	
卒業設計	各 教 員							(6)	(20)	6	◎
卒業論文	各 教 員							(6)	(20)	6	◎
建築構造力学序説	谷 口 (与)		2							2	○
建築構造力学Ⅰ	谷 池			2						2	○
建築構造力学Ⅱ	吉中・(塩山)				2					2	○
建築構造力学演習	(塩山)・谷池			(2)						1	
建築構造力学Ⅲ	吉 中					2				2	
建築基礎設計	谷口(与)・(嶋崎)					2				2	
鋼構造学	谷 口 (与)				2					2	○
建築防災・防火論	谷口(徹)・(草部)				2					2	
耐風工学	谷 池					2				2	○
鉄筋コンクリート構造学	(山 田)					2				2	○
振動工学	谷口(徹)・松村						2			2	
地盤基礎工学	大 島							2		2	(都市提供)
<b>[専門教育科目, 生産系科目群]</b>											
生産系科目群から7単位以上											
建築材料学	木 内			2						2	
建築構造材料実験	木内・谷口(徹) 吉中・(中井)			(4)						2	
建築施工	(岡 崎)							2		2	
測量学Ⅰ	松 村			2						2	(都市提供)
測量学Ⅰ実習及び製図	松村・他			(2)						1	(都市提供)
都市資源リサイクル工学	水 谷							2		2	(都市提供)
<b>[専門教育科目, 環境・設備系科目群]</b>											
環境・設備系科目群から7単位以上											
建築環境工学入門	小 林			2						2	○
建築環境工学Ⅰ	梅 宮				2					2	
建築環境工学Ⅱ	梅 宮					2				2	○
建築環境工学Ⅲ	小 林						2			2	
建築設備Ⅰ	(蒲 田)				2					2	
建築設備Ⅱ	(寺 尾)							2		2	
都市エネルギー工学	西岡・鍋島						2			2	

# 建築学科

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
[専門教育科目]											
建築計画総論	横 山				2					2	○
建築計画各論Ⅰ	横 山					2				2	
建築計画各論Ⅱ	徳 尾 野						2			2	
建築構法	藤 本	2								2	○
建築コンピュータグラフィックス	藤本・(中嶋)						2			2	
建築行政法規	(黒 川)						2			2	
建築デザインⅠ	宮 本				2					2	○
建築デザインⅡ	宮 本					2				2	
建築史Ⅰ	倉 方				2					2	
建築史Ⅱ	倉 方					2				2	○
建築論	(松村 他)					2				2	(集中講義)
造形演習Ⅰ	(高 市)		(4)							2	
造形演習Ⅱ	(高 市)			(4)						2	
都市デザイン	嘉名・佐久間						2			2	(都市提供)
景観デザイン	嘉 名							2		2	(都市提供)
都市計画	嘉 名					2				2	○(都市提供)
都市緑地計画	(下 村)							2		2	(都市提供)
都市交通計画	内 田							2		2	(都市提供)
環境評価学	遠藤・日野・水谷								2	2	(都市提供)
データ処理	(岡 本)			2						2	
技術者倫理	各 教 員					2				2	◎
技術経営論	各 教 員						2			2	
職業指導	(米 田)							2	2	4	教職科目
【大阪府立大学単位互換科目】											詳細は別表参照

履修方法【建築学科】

卒業に必要な単位

全学共通科目	59単位以上（必修22単位、選択必修4単位以上を含む）	
内訳	総合教育科目	18単位以上
	基礎教育科目	28単位以上（必修12単位、選択必修4単位以上、実験科目2単位以上を含む）
	外国語科目	10単位以上（必修10単位を含む）
	健康スポーツ科学科目	3単位以上（講義科目2単位以上、実習科目1単位以上を含む）
専門教育科目	77単位以上（必修14単位、選択必修37単位以上を含む） [生産系科目群及び環境・設備系科目群からそれぞれ7単位以上]	
総単位数	136単位以上（必修36単位、基礎教育科目の選択必修4単位以上、専門教育科目の選択必修37単位以上を含む）	

3年次から4年次に進級するために必要な単位

総単位数 108単位以上 (必修22単位、基礎教育科目の選択必修4単位以上、専門教育科目の選択必修34単位以上を含む)		
その内訳	総合教育科目	合計52単位以上(外国語必修科目8単位以上を含む)
	基礎教育科目	
	外国語科目	
	専門教育科目	45単位以上

◎は必修科目を表す。

○は選択必修科目を表す。

担当者欄の（ ）は非常勤講師を表す。

毎週講義時間欄の（ ）は演習、実験等

職業指導（教職科目・4単位）・技術経営論は卒業・進級に必要な単位数に含まれない。

大阪府立大学単位互換科目は【専門教育科目】の選択科目と同等の科目として取り扱う。

他学科科目の履修は人数制限がつくことがある。

総合教育科目Bの科目群「自然と人間」内にある主題「現代の自然科学」は、単位を修得しても卒業・進級に必要な単位には含まれない。

## 都市学科の学習・教育目標とカリキュラム

### 教育理念

都市固有の歴史と文化を継承・発展させつつ、環境負荷を低減し、人間活動と自然環境が調和した豊かで災害に強い安全・安心な都市「環境都市」の実現が強く求められています。環境都市を実現するためには、グローバルな視野を持ち、複眼的に物事を捉えることができるプランナーとエンジニアを養成することが重要です。都市学科では、都市デザイン、環境創生、安全防災の3つの領域を軸とした総合的な教育を行って、社会の要請を的確に把握し、倫理観と責任感に基づいて主体的に行動する「環境都市づくり」のプロフェッショナル育成を目指しています。

### 学習・教育目標

都市学科では、「環境都市づくり」のプロフェッショナル育成を目的として、以下の(A)～(H)を学習・教育目標として定め、教育を行っています。

#### (A) 幅広い教養と技術者倫理の習得

人文・社会科学分野の幅広い基礎学力を習得し、技術者の備えるべき社会に対する責任感と倫理観を身につける。

#### (B) 数学・自然科学分野の習得

環境都市実現に向けた工学的・技術的な取り組みに不可欠な数学・自然科学分野の基礎学力を持つ。

#### (C) 基本理念の習得

都市の計画とデザイン、環境の保全と再生、および安全防災に関わる基本理念を身につける。

#### (D) 専門知識と論理的思考力の習得

環境都市を実現するための工学的専門知識を身につけ、それらを応用できる論理的思考力を持つ。

#### (E) 調査・実験を計画・遂行・分析する能力の習得

都市環境の現状を正しく評価するための調査や実験を計画・遂行し、得られた結果を専門的知識と結びつけて正確に分析することができる。

#### (F) デザイン能力の習得

地域や社会のニーズをくみ取り、習得した知識や技術を用いて、環境都市の実現に向けた具体的な提案をまとめることができる。

#### (G) 表現力とコミュニケーション能力の習得

都市に関わる諸問題の解決へ至る一連のプロセスと得られた結果を論理的に記述・発表でき、質疑に対する適切な対応ができる。また、国際的コミュニケーションの基礎能力を持つ。

#### (H) 問題解決能力、自主的・継続学習能力の習得

環境都市実現に向けて自主的に課題を認識・提起でき、与えられた制約の下で解決する能力、および継続的に学習できる能力を持つ。

### カリキュラム

カリキュラムは、全学共通科目と専門教育科目で構成されます。

全学共通科目は、総合教育科目(社会・人文系科目)、外国語科目、健康スポーツ科目、基礎教育科目(数学・物理・化学・生物・地球学)から成り立っています。

専門教育科目は、「都市デザイン領域」、「環境創生領域」、「安全防災領域」を軸として、これらの領域に共通する必修科目、各領域の基礎科目である選択必修科目、各領域の応用科目である選択科目から成り立っています。

都市デザイン領域では、都市を取り巻く環境や現象を理解し、都市に求められる多様な役割を総合的に捉えて都市空間を計画・デザインするための手法に関わる科目を提供します。

環境創生領域では、都市圏の環境の現状と人間活動による環境への影響を正しく評価し、環境問題を解決するための基礎知識やそれを用いた工学的手法に関わる科目を提供します。

安全防災領域では、災害に強く、都市における市民生活を維持し、人々が安心かつ安全に暮らすことができる都市を支える技術やマネジメント手法に関わる科目を提供します。

このような学習・教育を通じて、「環境都市づくり」に必要な要素技術と、それらを総合的に利用して計画・設計・保全する技術を習得し、多種多様な都市問題を工学的に解決することができる人材を育成します。

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
<b>■ 全学共通教育科目</b>											
[総合教育科目（人文・社会科学科目）]										16	卒業に必要な単位
総合教育科目 A		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
総合教育科目 B		-	-	-	-	-	-	-	-	-	
[外国語科目]										10	卒業に必要な単位
C	E	I	2							1	英語6単位
C	E	II	2							1	
C	E	III		2						1	
C	E	IV		2						1	
C	E	V			2					1	
C	E	VI				2				1	
新修外国語基礎1・2			4							2	新修外国語4単位 (独語、仏語、露語、中国語、 朝鮮語から1カ国語を選択)
新修外国語基礎3*			2							1	
新修外国語基礎4*			2							1	
[健康スポーツ科学科目]										3	卒業に必要な単位
											(実習1単位と理論2単位以上)
健康運動科学論			-	-	-	-	-	-	-	2	理論
体力トレーニング科学論			-	-	-	-	-	-	-	2	
スポーツ実践科学論			-	-	-	-	-	-	-	2	
健康スポーツ科学実習			-	-	-	-	-	-	-	1	実習
[基礎教育科目（数学・自然科学科目）]										27	卒業に必要な単位
[基礎数学科目]											
図形科学 I			2							2	
図形科学 II				2						2	
線形代数 I			2							2	
線形代数 II				2						2	
解析 I			2							2	
解析 II				2						2	
解析 III					2					2	
解析 IV						2				2	

\*: 新修外国語基礎1・2を修得した後でなければ、新修外国語基礎3、新修外国語基礎4は履修できない。

都市学科

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
[応用数学科目]											
応 用 数 学 A				2						2	3科目から2単位以上修得
応 用 数 学 B				2						2	
応 用 数 学 C						2				2	
[物理学科目]											
基 礎 物 理 学 I - E		2								2	
基 礎 物 理 学 III			2							2	
基 礎 物 理 学 実 験 I		6								3	
[化学科目]											
基 礎 物 理 化 学 A			2							2	
基 礎 物 理 化 学 B			2							2	
基 礎 有 機 化 学		2								2	
基 礎 分 析 化 学			2							2	
基 礎 無 機 化 学			2							2	
基 礎 化 学 実 験 I			6							3	
[生物学科目]											
生 物 学 概 論 A					2					2	
生 物 学 概 論 B						2				2	
生 物 学 概 論 D					2					2	
生 物 学 実 験 A			4							2	
[地球学科目]											
一 般 地 球 学 B - I			2							2	
一 般 地 球 学 B - II			2							2	
地 球 学 実 験 B				4						2	
建 設 地 学				2						2	
建 設 地 学 実 習				2						1	

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考	
		1年次		2年次		3年次		4年次				
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
<b>■ 専門教育科目</b>												
[ 必修科目 ]										27	卒業に必要な単位	
領域 共通	都 市 学 入 門	全 教 員	2								2	
	都 市 史	嘉名・水谷・吉田・松村	2								2	
	都市工学のための科学基礎	山口・他		2							2	
	都 市 環 境 学	遠藤・他		2							2	オムニバス
	安 全 防 災 工 学	山口・他		2							2	オムニバス
	技 術 英 語 I	(イチノセ)					2				1	
	技 術 者 倫 理	各 教 員					2				2	オムニバス
	都 市 学 実 験	各 教 員					(2)				1	
	都 市 学 総 論	各 教 員						2			2	オムニバス
	都 市 学 演 習 I	吉田・鍋島・山田	2								1	
	都 市 学 演 習 II	佐久間・(遊佐)		2							1	
	都 市 学 演 習 III	西岡・重松・角掛・松村			2						1	
	卒 業 研 究	全 教 員								( ) ( )	8	
[ 選択必修科目 ]										26	卒業に必要な単位	
領域 共通	都 市 デ ザ イン 総 合 演 習	佐久間・他					4			2	3つの演習から 2単位を修得	
	環 境 創 生 総 合 演 習	矢持・他					4			2		
	安 全 防 災 総 合 演 習	山口・他					4			2		
都市 デザイン 領域	計 画 論	日野		2						2		
	都 市 計 画	嘉名		2						2		
	都 市 デ ザ イン	嘉名・佐久間			2					2		
	計 画 ・ デ ザ イン 演 習 I	(鈴木(孝))			4					2		
環境 創生 領域	環 境 計 測 学	貫上・西岡・鍋島		2						2		
	基 礎 流 体 力 学	重松		2						2		
	物 質 ・ 熱 移 動 学	西岡・重松			2					2		
	都 市 エ ネ ル ギ ー 工 学	鍋島・西岡			2					2		
安全 防災 領域	環 境 生 態 学	矢持			2					2		
	構 造 力 学 I	松村・角掛		2						2		
	土 質 力 学 I	大島		2						2		
	都 市 防 災 計 画	(秋月・他)		2						2		
	水 理 学	重松			2					2		
	構 造 力 学 II	松村・角掛			2					2		
土 質 力 学 II	大島・山田			2					2			

都市学科

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考
		1年次		2年次		3年次		4年次			
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期		
[ 選択科目 ]										30	卒業に必要な単位
領域共通	地 理 情 報 科 学	鍋島・(榊)			2					2	
	測 量 学 I	松村			2					2	
	測量学 I 実習及び製図	吉田・松村・角掛・遠藤・谷口(徹)・山田			2					1	
	測 量 学 II	(稲葉)				2				2	
	技 術 英 語 II	(イチノセ)						2		1	
	環 境 政 策 論	(植田)					2			2	集中講義
	学 外 実 習	学科主任					( )			1	
都市デザイン領域	都 市 緑 地 計 画	(下村)					2			2	
	都 市 交 通 計 画	内田					2			2	
	計 画 ・ デ ザ イ ン 演 習 II	佐久間・嘉名・(高岡・米井)					8			4	
	景 観 デ ザ イ ン	嘉名						2		2	
	国 土 地 域 計 画	内田						2		2	
	都市づくり社会システム	(赤崎)						2		2	
	都 市 論	嘉名・内田・( )							2	2	
	計 画 ・ デ ザ イ ン 演 習 III	嘉名・佐久間・横山・宮本・(忽那)							8	4	
卒 業 設 計	各 教 員							( ) ( )	6		
環境創生領域	都 市 伝 熱 工 学	西岡					2			2	
	水 圏 生 態 工 学	矢持					2			2	
	水 処 理 工 学	貫上					2			2	
	都市資源リサイクル工学	水谷					2			2	
	気 圏 環 境 工 学	西岡・(西谷・船坂)						2		2	
	地 圏 環 境 工 学	大島・貫上・重松						2		2	
	環 境 評 価 学	遠藤・日野・水谷						2		2	
	室 内 空 気 調 整 工 学	(寺尾)							2	2	
	交 通 環 境 工 学	日野・吉田							2	2	
	室 内 環 境 工 学	梅宮							2	2	
安全防災領域	水 理 学 演 習	遠藤			2					1	
	構 造 力 学 演 習	角掛			2					1	
	土 質 力 学 演 習	山田			2					1	
	建 設 材 料 学	鬼頭・山口・角掛					2			2	
	鋼 構 造 設 計 論	山口・松村					2			2	
	地 盤 基 礎 工 学	大島					2			2	
	ラ イ フ ラ イ ン 工 学	( )					2			2	
	プロジェクトマネジメント	内田・山口						2		2	
	コンクリート構造設計論	鬼頭・角掛						2		2	
耐 震 工 学	松村・角掛・山田						2		2		

授 業 科 目	担 当 者	毎 週 講 義 時 間								単 位 数	備 考	
		1年次		2年次		3年次		4年次				
		前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期			
安全 防災 領域	水 防 災 工 学	重松						2			2	
	振 動 工 学	松村・谷口(徹)						2			2	
	橋 梁 工 学	鬼頭・山口							2		2	
	コンピュータシミュレーション解析	山口・松村							2		2	
	材 料 実 験	大島・山田・角掛							(4)		2	
連 関 科 目	建 築 計 画 総 論	横山			2						2	(建築提供)
	建 築 デ ザ イ ン I	宮本			2						2	(建築提供)
	耐 風 工 学	谷池						2			2	(建築提供)
	建 築 構 法	藤本				2					2	(建築提供)
	建 築 防 災 ・ 防 火 論	谷口(徹)・(草部)						2			2	(建築提供)
工 学 部 共 通	技 術 経 営 論	鳥生・大島・(他)						2			2	
	職 業 指 導	(米田)							2	2	4	教職科目

都市学科の提供単位数と卒業・4年次進級に必要な単位数

科 目		提供単位数		卒業に必要な単位数		4年次進級に必要な単位数				
全学共通科目	総合教育科目A		—		16	29	12	23		
	総合教育科目B		—							
	外国語科目		10						10	8
	健康スポーツ科目		7		3 <sup>注1)</sup>	3				
	基礎教育科目	基礎数学科目		16	59	12	27 <sup>注2)</sup>	22		
		応用数学科目		6						
		物理学科目		7						—
		化学科目		13						—
		生物学科目		8						—
		地球学科目		9						—
専門教育科目	必修科目	卒業研究		8	27	8	27	—	15	
		卒業研究以外		19						19
	選択必修科目	領域共通		6	36	2 <sup>注5)</sup>	26	25		
		都市デザイン領域		8						—
		環境創生領域		10						—
		安全防災領域		12						—
	選択科目 <sup>注6)</sup>	領域共通		11	94	30	24			
		都市デザイン領域		26						
		環境創生領域		20						
		安全防災領域		27						
連関(建築学科提供)		10								
総単位数			157 <sup>注3)</sup>		139		111 <sup>注4)</sup>			

注1) 実習1単位と理論2単位以上修得すること。

注2) 「応用数学科目」から2単位以上修得すること。「物理学科目」「化学科目」「生物学科目」「地球学科目」の2つ以上の科目から、それぞれ2単位以上修得すること。

注3) 専門教育科目の提供単位数のみを記している。

注4) 区分ごとに必要な単位数の合計(109単位)に加えて、2単位を卒業に必要な単位の中から修得すること。

注5) 「都市デザイン総合演習」・「環境創生総合演習」・「安全防災総合演習」から2単位修得すること。

注6) 「技術経営論」および「職業指導」(教職科目・4単位)は、卒業に必要な単位数に含めない。大阪府立大学単位互換科目は選択科目として取扱う。

※ 総合教育科目Bの科目群「自然と人間」内にある主題「現代の自然科学」は、単位を修得しても卒業・進級に必要な単位には含まれない。



## 大阪府立大学・大阪市立大学工学部単位互換制度について

平成14年度後期(10月)から、大阪府立大学工学部が提供している科目を履修し、単位を修得した科目は本学において修得したものとみなし、単位認定が可能です。

ただし、卒業に必要な単位として認められるかは所属学科により異なります。また、受講者数に制限があるなど、下記注意事項等をよく読んでください。

シラバス、出願手続き書類の交付等は履修登録の時期に学生サポートセンター工学部掲示板及びポータルサイトに掲示して周知します。

### ○ 注意事項

- ※ 単位互換科目の授業・試験時間等については、大阪府立大学の取扱によります。また、休業日・試験期間等は異なりますので、大阪府立大学の学年歴を参考に、本学における履修に支障なく希望する科目が履修可能か、通学に要する時間も含めて十分に検討し出願してください。(履修許可後に受講放棄することのないよう注意してください。)
- ※ 授業料は免除されます。別途、大阪府立大学での手続きが必要です。
- ※ 大阪府立大学から「身分証明書」等が交付されますが、通学定期の購入はできません。
- ※ 「身分証明書」等により、大阪府立大学の施設(図書館等)の利用が可能です。
- ※ 出願希望の学生は、「学生教育研究災害傷害保険」に必ず加入してください。
- ※ 出願年度の定期健康診断を必ず受診してください。

### ○ 出願資格

原則4回生とし、既に相当以上の単位を修得し、卒業に支障のない者。  
ただし、履修できない学科もあるので注意してください。

### ○ 大学の所在地

【大阪府立大学】 (所在地) 大阪府堺市中区学園町1-1  
(最寄駅) 南海高野線「白鷺」駅下車徒歩10分  
地下鉄御堂筋線「なかもず」駅下車徒歩15分

### ○ 大阪府立大学の授業時間

1時限	9:00~10:30	2時限	10:40~12:10
3時限	12:55~14:25	4時限	14:35~16:05
5時限	16:15~17:45		

# 大阪市立大学大学院工学研究科履修規程

制 定 昭和 52 年 2 月 17 日  
最近改正 平成 26 年 1 月 23 日

## (専攻・課程)

第 1 条 大阪市立大学大学院工学研究科（以下「本研究科」という。）に次の 4 専攻を置き、2 年の前期博士課程と 3 年の後期博士課程に分ける。

機械物理系専攻      電子情報系専攻      化学生物系専攻      都市系専攻

第 2 条 本研究科の授業科目、単位数、履修方法及び学位論文の取扱い等については、本学大学院学則及び学位規程に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

## (授業科目及び単位数)

第 3 条 前期博士課程の授業科目及び単位数は、別表 1 による。

2 後期博士課程の授業科目及び単位数は、別表 2 による。

## (課程修了に必要な単位数)

第 4 条 前期博士課程においては、必修科目を含めて 30 単位数以上を修得しなければならない。

2 後期博士課程においては、6 単位数以上を修得しなければならない。ただし、指導教員の授業科目を必修とする。

3 本研究科において、指導教員が当該学生の履修上特に必要と認め研究科教授会で承認された場合に限り、他の専攻、本学大学院の他の研究科、本学学部（専門教育科目に限る。）、又は外国の大学院において修得させた授業科目を所定の単位数に充当することができる。

## (履修手続)

第 5 条 学生は、受講する全科目について、あらかじめ指定された期日までに Web 履修システムにより履修登録しなければならない。なお、履修登録をしない科目については、受講することができない。

2 履修登録に不備や誤りがある場合は、期日までに Web 履修システムにより修正しなければならない。

## (学位論文の作成)

第 6 条 学生は、学位論文の作成等にあたり、担当教員の研究指導を受けるものとする。

## (学位論文の申請)

第 7 条 次項のいずれかに該当する場合は、学位論文を提出し、学位を申請することができる。

### 前期博士課程

- (1) 本研究科前期博士課程に 2 年以上在学し、第 4 条第 1 項に規定する単位を修得した者。
- (2) 学年末で当該課程在学 2 年に達する者で、第 4 条第 1 項に規定する単位を修得できる見込みの者。

ただし、在学期間に関しては、優れた業績をあげた者と本研究科が特に認めた場合に限り、在学期間の短縮規定を適用することがある。

### 後期博士課程

- (1) 本研究科後期博士課程に 3 年以上在学し、第 4 条第 2 項又は第 3 項に規定する単位を修得

した者。

(2) 学年末で当該課程在学3年に達する者で、第4条第2項又は第3項に規定する単位を修得できる見込みの者。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績をあげた者と本研究科が認めた場合に限り、在学期間の短縮規定を適用することがある。

(学位授与申請書類)

第8条 前期博士課程及び後期博士課程の学位授与申請に際しては、次の書類を提出しなければならない。

前期博士課程

(1) 修士論文申請書類

①学位申請書 1部

②修士論文 1部

ただし、大学院学則第20条第2項の規定の適用を受ける者の扱いについては、別に定める。

後期博士課程

(2) 博士論文申請書類

①学位申請書(指導教員名を記載する) 1部

②単位修得証明書 1部

③研究指導調書 1部

④履歴書 1部

⑤論文目録 1部

⑥論文内容の要旨 1部

⑦論文公表状況 1部

⑧博士論文 3部

(学位論文の提出期限)

第9条 学位論文は、別途定める期日までに提出しなければならない。

(実施細目)

第10条 本規程の実施細目については、各専攻の定めるところによる。

(博士課程教育リーディングプログラムに関する特記)

第11条 本研究科に博士課程教育リーディングプログラムコース「システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム」(以下、リーディングプログラムと略す。)を置き、対象専攻を機械物理系専攻、電子情報系専攻、化学生物系専攻とする。

2 リーディングプログラムを履修する者は、上記3専攻の前期博士課程入学試験合格者を対象としてリーディングプログラムにおいて実施される選抜試験の合格者とする。

3 リーディングプログラムを履修する者は、第3条による授業科目を第4条に定める単位数以上を修得し、かつ、リーディングプログラム履修規程が定める授業科目を修得しなければならない。

4 リーディングプログラム履修規程は、別にこれを定める。

5 リーディングプログラムを履修する者は、大学院学則第20条2項に基づき、前期博士課程修了要件のうち修士論文の審査及び試験の合格について、本研究科の付託を受けてリーディングプログラムにおいて実施される次に掲げる試験及び審査(Qualifying Examination)の合格をもって代えることができる。

(1) 専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力並びに当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養であって当該前期の課程において修得し、又は涵養すべきものについての試験。

(2) 博士論文に係る研究を主体的に遂行するために必要な能力であって、当該前期の課程において修得すべきものについての審査。

(その他)

第 12 条 この規程に疑義の生じたときには、研究科教授会で決定する。

附則 [以下省略]

## 別表1

## 工学研究科前期博士課程

## 機械物理系専攻

科目名	担当者	配当年次	科目の形態	単位数	科目修得 チェック欄	備考
[環境・エネルギー系講義科目]						
熱力学特論	西村 伸也	1・2	講義	2		
移動現象論	加藤 健司	1・2	講義	2		
応用伝熱学特論	伊與田浩志	1・2	講義	2		
数値流体力学特論	脇本 辰郎	1・2	講義	2		
[システムダイナミクス系講義科目]						
振動工学特論	川合 忠雄	1・2	講義	2		
動力システム工学特論	瀧山 武	1・2	講義	2		
メカトロニクス特論	高田 洋吾	1・2	講義	2		
波動論	山崎 友裕	1・2	講義	2		
光診断評価工学	佐伯 壮一	1・2	講義	2		
[マテリアルデザイン系講義科目]						
精密機械加工学	(田中 芳雄)	1・2	講義	2		
接合加工プロセス工学	佐藤 嘉洋	1・2	講義	2		
材料複合工学	逢坂 勝彦	1・2	講義	2		
高分子固体力学	吉岡 真弥	1・2	講義	2		
バイオ金属材料学	川上 洋司	1・2	講義	2		
バイオニクス材料工学特論	横川 善之	1・2	講義	2		
分子動力学	(清原 健司)	1・2	講義	2		集中
結晶強度塑性論	兼子 佳久	1・2	講義	2		
[応用数学講義科目]						
現代解析学	多羅間 茂雄	1・2	講義	2		
微分方程式特論	多羅間 茂雄	1・2	講義	2		
応用解析学特論	多羅間 茂雄	1・2	講義	2		
[他専攻講義科目]						
(他専攻の表を参照のこと)		1・2	講義	各2		
[演習科目]						
特別演習 (熱力学)	西村 伸也	1・2	演習	2		
特別演習 (応用伝熱学)	伊與田浩志	1・2	演習	2		
特別演習 (移動現象論)	加藤 健司	1・2	演習	2		
特別演習 (流体力学)	脇本 辰郎	1・2	演習	2		
特別演習 (振動工学)	川合 忠雄	1・2	演習	2		
特別演習 (光診断評価工学)	佐伯 壮一	1・2	演習	2		
特別演習 (制御工学)	今津 篤志	1・2	演習	2		
特別演習 (金属材料とバイオフィルム)	佐藤嘉洋・菊地靖志	1・2	演習	2		

科目名	担当者	配当年次	科目の形態	単位数	科目修得 チェック欄	備考
特別演習（バイオ金属材料学）	川上 洋司	1・2	演習	2		
特別演習（WEBプログラミング）	瀧山 武	1・2	演習	2		
特別演習（アクチュエータ工学）	高田 洋吾	1・2	演習	2		
特別演習（材料複合工学）	逢坂 勝彦	1・2	演習	2		
特別演習（先進複合材料工学）	中谷 隼人	1・2	演習	2		
特別演習（波動論）	山崎 友裕	1・2	演習	2		
特別演習（金属材料工学）	兼子 佳久	1・2	演習	2		
特別演習（材料物性工学）	横川 善之	1・2	演習	2		
特別演習（現代解析学）	多羅間 茂雄	1・2	演習	2		
特別演習（高分子固体力学）	吉岡 真弥	1・2	演習	2		
[特別研究科目]						
前期特別研究	各教員	1・2	演習	8		
[特別講義科目]						
特別講義 I	(佐々木 敏彦) (谷本 隆一) (稲村 偉)	1・2	講義	2		集中
特別講義 II	(栗田 裕) (高山 直彦) (中西 重康)	1・2	講義	2		集中

- 1) 指導教員の提供する講義科目1科目（2単位）及び前期特別研究（8単位）を必修とする。
- 2) 環境・エネルギー系、システムダイナミクス系、マテリアルデザイン系及び応用数学の各講義科目群から1科目以上（各2単位、計8単位以上）を選択必修とする。
- 3) 特別演習のうち、4科目（8単位）を選択必修とする。
- 4) 他専攻講義科目については合計で2科目（4単位）を上限として課程修了単位に含めることができる。
- 5) 特別講義科目については、上記1)～3)を満たしたうえで課程修了単位に含めることができる。
- 6) 課程修了には、合計30単位以上の修得を必要とする。
- 7) 修士（工学）の学位を取得するためには、上記の課程修了要件に加えて、工学研究科履修規程に従い、修士論文、又は所定の試験について条件を満たす必要がある。
- 8) 科目の内容については、シラバスを参考にすること。
- 9) 表内の科目修得チェック欄を活用し、各自修得状況の把握に努めて下さい。

## 電子情報系専攻

科目名	担当者	配当年次	科目の形態	単位数	科目修得 チェック欄	備考
[電子エネルギー系講義科目]						
電子・イオンビーム光学特論	小林 中	1・2	講義	2		
電子物理工学特論	細田 誠	1・2	講義	2		
ナノマテリアル工学特論	金 大貴	1・2	講義	2		
光通信デバイス特論	杉山 久佳	1・2	講義	2		
電磁デバイス特論	辻本 浩章	1・2	講義	2		
ソフトウェア特論	(福嶋 秀晃)	1・2	講義	2		
ロボット工学特論	田窪 朋仁	1・2	講義	2		
電子応用特論	(今井 伸一)	1・2	講義	2		
[物理物性系講義科目]						
光物性工学特論	竹内 日出雄	1・2	講義	2		
物性制御工学特論	中山 弘	1・2	講義	2		
量子力学特論	寺井 章	1・2	講義	2		
真空工学特論	福田 常男	1・2	講義	2		西暦偶数年開講
半導体物理学特論	中山 正昭	1・2	講義	2		
数理工学特論	杉田 歩	1・2	講義	2		
プラズマプロセス工学特論	白藤 立	1・2	講義	2		
パワーエレクトロニクス技術特論	重川 直輝	1・2	講義	2		
光工学特論	向井 孝彰	1・2	講義	2		
スピンエンジニアリング特論	仕幸 英治	1・2	講義	2		新設
応用数理特論	(未定)	1・2	講義	2		
物質応用特論	(鵜飼 育弘)	1・2	講義	2		
[情報通信系講義科目]						
3次元画像工学特論	高橋 秀也	1・2	講義	2		
光波電子工学特論	宮崎 大介	1・2	講義	2		
光計測学特論	(未定)	1・2	講義	2		
コンピュータビジョン特論	鳥生 隆	1・2	講義	2		
アルゴリズムとデータ構造特論	中島 重義	1・2	講義	2		
知能ロボティクス特論	上野 敦志	1・2	講義	2		西暦奇数年開講
デジタル通信特論	岡 育生	1・2	講義	2		
情報ネットワーク特論	阿多 信吾	1・2	講義	2		新設
通信システム特論	原 晋介	1・2	講義	2		
通信方式特論	辻岡 哲夫	1・2	講義	2		
基礎情報学特論	(馬野 元秀)	1・2	講義	2		
[他専攻系講義科目]						
(他専攻の表を参照のこと)		1・2	講義	各2		

科目名	担当者	配当年次	科目の形態	単位数	科目修得 チェック欄	備考
[演習科目]						
特別演習（電気情報工学I）	阿多信吾	1・2	演習	2		
特別演習（電気情報工学II）	宮崎大介	1・2	演習	2		
特別演習（電子・物理工学I）	金大貴・白藤立・細田誠	1・2	演習	2		
特別演習（電子・物理工学II）	各教員	1・2	演習	2		
特別演習（電磁気学I）	重川直輝・武智誠次	1・2	演習	2		
特別演習（電磁気学II）	重川直輝・武智誠次	1・2	演習	2		
特別演習（材料計測工学I）	白藤立・村治雅文・田中健司	1・2	演習	2		
特別演習（材料計測工学II）	白藤立・村治雅文・田中健司	1・2	演習	2		
特別演習（光電子工学I）	向井孝彰・宮崎大介	1・2	演習	2		
特別演習（光電子工学II）	向井孝彰・宮崎大介	1・2	演習	2		
特別演習（電磁デバイス工学I）	辻本浩章・仕幸英治	1・2	演習	2		
特別演習（電磁デバイス工学II）	辻本浩章・仕幸英治	1・2	演習	2		
特別演習（光物性工学I）	中山正昭・竹内日出雄	1・2	演習	2		
特別演習（光物性工学II）	中山正昭・竹内日出雄	1・2	演習	2		
特別演習（物性制御工学I）	中山弘・福田常男	1・2	演習	2		
特別演習（物性制御工学II）	中山弘・福田常男	1・2	演習	2		
特別演習（波動物理工学I）	細田誠・菜嶋茂喜	1・2	演習	2		
特別演習（波動物理工学II）	細田誠・菜嶋茂喜	1・2	演習	2		
特別演習（ナノマテリアル工学I）	金 大貴	1・2	演習	2		
特別演習（ナノマテリアル工学II）	金 大貴	1・2	演習	2		
特別演習（応用分光計測学I）	小林 中	1・2	演習	2		
特別演習（応用分光計測学II）	小林 中	1・2	演習	2		
特別演習（数理工学I）	寺井章・杉田歩	1・2	演習	2		
特別演習（数理工学II）	寺井章・杉田歩	1・2	演習	2		
特別演習（情報システム工学I）	高橋 秀也	1・2	演習	2		
特別演習（情報システム工学II）	高橋 秀也	1・2	演習	2		
特別演習（情報処理工学I）	鳥生隆・中島重義	1・2	演習	2		
特別演習（情報処理工学II）	鳥生隆・中島重義	1・2	演習	2		
特別演習（知識情報処理工学I）	田窪朋仁・上野敦志	1・2	演習	2		
特別演習（知識情報処理工学II）	田窪朋仁・上野敦志	1・2	演習	2		
特別演習（情報ネットワーク工学I）	岡 育生	1・2	演習	2		
特別演習（情報ネットワーク工学II）	岡 育生	1・2	演習	2		
特別演習（マルチメディア工学I）	阿多 信吾	1・2	演習	2		
特別演習（マルチメディア工学II）	阿多 信吾	1・2	演習	2		
特別演習（通信システム工学I）	原晋介・杉山久佳・辻岡哲夫	1・2	演習	2		
特別演習（通信システム工学II）	原晋介・杉山久佳・辻岡哲夫	1・2	演習	2		

科目名	担当者	配当年次	科目の形態	単位数	科目修得 チェック欄	備考
[特別研究科目]						
前期特別研究	各 教 員	1・2	演習	8		
特別講義Ⅰ	(高井 治)	1・2	講義	1		
特別講義Ⅱ	(山田 容子)	1・2	講義	1		
特別講義Ⅲ	(溝渕 豊)	1・2	講義	1		
特別講義Ⅳ	(森田 哲郎)	1・2	講義	1		
特別講義Ⅴ	(石川 彰夫) (水科 晴樹)	1・2	講義	1		

- 1) 指導教員の提供する講義科目1科目(2単位)、「特別演習(電気情報工学Ⅰ、Ⅱ)」「特別演習(電子・物理工学Ⅰ、Ⅱ)」のうち、指導教員が指定する特別演習科目2科目(4単位)、及び前期特別研究(8単位)を必修とする。
- 2) 電子エネルギー系、物理物性系及び情報通信系の各講義科目群から1科目以上(各2単位、計6単位以上)を選択必修とする。
- 3) 他専攻講義科目については2科目(4単位)を上限として課程修了単位に含めることができる。
- 4) 課程修了には、講義科目7科目(14単位)以上、特別演習科目4科目(8単位)以上を含めて、合計30単位以上の修得を必要とする。
- 5) 修士(工学)の学位を取得するためには、上記の課程修了要件に加えて、工学研究科履修規程に従い、修士論文、又は所定の試験について条件を満たす必要がある。
- 6) 科目の内容については、シラバスを参考にすること。
- 7) 表内の科目修得チェック欄を活用し、各自修得状況の把握に努めて下さい。

## 化学生物系専攻

科目名	担当者	配当年次	科目の形態	単位数	科目修得 チェック欄	備考
[物質化学系講義科目]						
無機材料化学特論	小槻勉・有吉欽吾	1・2	講義	2		
電気化学特論	小槻 勉	1・2	講義	2		
高分子物性特論	堀邊 英夫	1・2	講義	2		
高分子合成特論	佐藤 絵理子	1・2	講義	2		
機器分析学特論	辻 幸一	1・2	講義	2		
レーザー化学特論	米谷 紀嗣	1・2	講義	2		
[分子化学系講義科目]						
有機合成化学特論	南 達哉	1・2	講義	2		
超分子化学特論	長崎 健	1・2	講義	2		
蛋白質工学特論	中西 猛	1・2	講義	2		
分子触媒化学特論	畠中 康夫	1・2	講義	2		
光有機材料化学特論	小畠 誠也	1・2	講義	2		
[生物工学系講義科目]						
遺伝子工学特論	北村 昌也	1・2	講義	2		
細胞情報学特論	立花 太郎	1・2	講義	2		
酵素工学特論	(中野 博文)	1・2	講義	2		
生体高分子化学特論	田辺 利住	1・2	講義	2		
機能分子工学特論	立花 亮	1・2	講義	2		
細胞利用工学特論	東 雅之	1・2	講義	2		
分離工学・生物化学工学特論	大嶋 寛	1・2	講義	2		
[特別講義科目]						
特別講義Ⅰ(2回生 XⅠ)	(高田 和典)	1・2	講義	1		
特別講義Ⅱ(2回生 XⅡ)	(松坂 裕之)	1・2	講義	1		
特別講義Ⅲ(2回生 XⅢ)	(池田 浩)	1・2	講義	1		
特別講義Ⅳ(2回生 XⅣ)	(佐々木 裕次)	1・2	講義	1		
特別講義Ⅴ(2回生 XⅤ)	(西野 孝)	1・2	講義	1		
特別講義Ⅵ(2回生 XⅥ)	(横川 隆志)	1・2	講義	1		
特別講義Ⅶ(2回生 XⅦ)	(安達 修二)	1・2	講義	1		
特別講義Ⅷ(2回生 XⅧ)	(濱地 格)	1・2	講義	1		
特別講義Ⅸ(2回生 XⅨ)	(大井 英之)	1・2	講義	1		
特別講義Ⅹ(2回生 XⅩ)	(笠井 尚哉)	1・2	講義	1		
[他専攻講義科目]						
(他専攻の表を参照のこと)		1・2	講義	各2		
[演習科目]						
特別演習	各教員	1・2	演習	8		
[特別研究科目]						
前期特別研究	各教員	1・2	演習	8		

- 1) 指導教員の提供する講義科目 1 科目 (2 単位) 及び前期特別研究 (8 単位) を必修とする。
- 2) 物質化学系、分子化学系及び生物工学系の各講義科目群から 1 科目以上 (各 2 単位、計 6 単位以上) を選択必修とする。
- 3) 特別講義科目は 6 科目 (6 単位) を上限として課程修了科目に加えることができる。
- 4) 特別演習 (8 単位) を必修とする。
- 5) 他専攻講義科目については、2 科目 (4 単位) を上限として課程修了単位に含めることができる。
- 6) 工学研究科共通科目「技術経営特論」は課程修了単位に含まれない。
- 7) 課程修了には、合計 30 単位以上の修得を必要とする。
- 8) 修士 (工学) の学位を取得するためには、上記の課程修了要件に加えて、工学研究科履修規程に従い、修士論文、又は所定の試験について条件を満たす必要がある。
- 9) 科目の内容については、シラバスを参考にすること。
- 10) 表内の科目修得チェック欄を活用し、各自修得状況の把握に努めて下さい。

都市系専攻

科目名	担当者	配当年次	科目の形態	単位数	科目修得 チェック欄	備考
[計画系講義科目]						
建築計画特論	横山 俊祐 徳尾野 徹	1・2	講義	2		※1意匠
建築デザイン特論	宮本 佳明	1・2	講義	2		※1意匠
都市・建築史	倉方 俊輔	1・2	講義	2		
都市計画特論	嘉名 光市	1・2	講義	2		
都市デザイン特論	内田 敬 吉田 長裕 佐久間康富	1・2	講義	2		
生態環境都市論	(増田 昇)	1・2	講義	2		
計画学特論	日野 泰雄	1・2	講義	2		
交通計画特論	内田 敬	1・2	講義	2		
[環境系講義科目]						
視聴覚環境論	梅宮 典子	1・2	講義	2		
温熱・空気環境論	小林 知広	1・2	講義	2		
都市エネルギー工学特論	鍋島美奈子	1・2	講義	2		※1設備
地域環境工学特論	西岡 真稔	1・2	講義	2		
環境情報処理特論	瀧澤 重志	1・2	講義	2		
水環境工学特論	貫上 佳則	1・2	講義	2		
水圏生態系工学特論	矢持 進	1・2	講義	2		
都市資源リサイクル工学特論	水谷 聡	1・2	講義	2		
[構造系講義科目]						
空間構造学	谷口与史也	1・2	講義	2		※1構造
鋼構造学特論	山口 隆司	1・2	講義	2		
鋼構造耐震工学特論	松村 政秀	1・2	講義	2		
複合構造学	鬼頭 宏明 角掛 久雄	1・2	講義	2		
連続体力学	鬼頭 宏明 山口 隆司	1・2	講義	2		
最適設計・耐震設計論	(上谷 宏二)	1・2	講義	2		※1構造
地盤工学特論	大島 昭彦	1・2	講義	2		
風工学特論	谷池 義人	1・2	講義	2		※1構造
流体環境・水防災工学特論	重松 孝昌	1・2	講義	2		
地盤防災工学特論	大島 昭彦 山田 卓	1・2	講義	2		
[他専攻講義科目]						
(他専攻の表を参照のこと)		1・2	講義	各2		
[工学研究科共通講義科目]						
技術経営特論	鳥生 隆 大島 昭彦	1・2	講義	2		

科目名	担当者	配当年次	科目の形態	単位数	科目修得 チェック欄	備考
[演習科目]						
特別演習（建築設計演習Ⅰ）	横山 俊祐	1・2	演習	2		※1意匠
特別演習（建築設計演習Ⅱ）	宮本 佳明	1・2	演習	2		※1意匠
特別演習（建築構法）	藤本 益美	1・2	演習	2		
特別演習（建築史）	倉方 俊輔	1・2	演習	2		
特別演習（都市計画Ⅰ）	日野 泰雄	1・2	演習	2		
特別演習（都市計画Ⅱ）	嘉名 光市 (後藤 祐介) (三谷 幸司)	1・2	演習	2		
特別演習（都市デザイン）	嘉名 光市 吉田 長裕 佐久間康富	1・2	演習	2		
特別演習（都市基盤計画）	内田 敬	1・2	演習	2		
特別演習（建築環境工学Ⅰ）	梅宮 典子	1・2	演習	2		※1設備
特別演習（建築環境工学Ⅱ）	梅宮 典子 小林 知広	1・2	演習	2		
特別演習（環境図形科学）	瀧澤 重志	1・2	演習	2		※1設備
特別演習（都市エネルギー工学）	鍋島美奈子	1・2	演習	2		※1設備
特別演習（地域環境工学）	西岡 真稔	1・2	演習	2		※1設備
特別演習（環境生態工学）	矢持 進 遠藤 徹	1・2	演習	2		
特別演習（都市リサイクル工学Ⅰ）	貫上 佳則	1・2	演習	2		
特別演習（都市リサイクル工学Ⅱ）	水谷 聡	1・2	演習	2		
特別演習（河海環境構造工学）	重松 孝昌	1・2	演習	2		
特別演習（建築構造学Ⅰ）	谷口与史也	1・2	演習	2		
特別演習（建築構造学Ⅱ）	吉中 進	1・2	演習	2		
特別演習（橋梁工学Ⅰ）	山口 隆司 松村 政秀	1・2	演習	2		
特別演習（橋梁工学Ⅱ）	山口 隆司	1・2	演習	2		
特別演習（構造工学Ⅰ）	角掛 久雄 松村 政秀	1・2	演習	2		
特別演習（構造工学Ⅱ）	鬼頭 宏明 角掛 久雄	1・2	演習	2		
特別演習（地盤工学Ⅰ）	大島 昭彦	1・2	演習	2		
特別演習（地盤工学Ⅱ）	山田 卓	1・2	演習	2		
特別演習（風工学）	谷池 義人	1・2	演習	2		
特別演習（建築材料リサイクル）	木内 龍彦	1・2	演習	2		

科目名	担当者	配当年次	科目の形態	単位数	科目修得 チェック欄	備考
<b>[建築士実務経験対応科目]</b>						
システムビルディング論	(本多 友常)	1・2	講義	2		※2共通
設計プロジェクトマネジメント特論	(衛藤 照夫)	1・2	講義	2		※2共通
特別演習 (建築構造実験)	谷口 徹郎 谷口与史也	1・2	演習	2		※1構造
特別演習 (建築構造設計演習)	木内 龍彦 吉中 進	1・2	演習	2		※2構造
建築プログラム演習	(原 正二郎)	1・2	演習	2		※2意匠
建築工事監理実習	(大淵 敏行)	1・2	実習	2		※2共通
インターンシップⅠ (意匠)	宮本 佳明	1	実習	5		※2意匠
(構造)	各教員	1・2	実習	5		※2構造
(設備)	各教員	1	実習	2		※2設備
インターンシップⅡ (意匠)	横山 俊祐	1	実習	5		※2意匠
(設備)	各教員	1	実習	3		※2設備
インターンシップⅢ (意匠)	徳尾野 徹	2	実習	5		※2意匠
(設備)	各教員	1	実習	5		※2設備
インターンシップⅣ (設備)	各教員	2	実習	5		※2設備
<b>[特別研究科目]</b>						
前期特別研究	各教員	1・2	演習	8		

- 1) 指導教員の提供する講義科目1科目(2単位)及び前期特別研究(8単位)を必修とする。
- 2) 計画系、環境系及び構造系の各講義科目群のうち複数の科目群から1科目以上(各2単位、計4単位以上)を選択必修とする。
- 3) 他専攻講義科目については、2科目(4単位)を上限として課程修了単位に含めることができる。
- 4) 課程修了には、講義科目7科目(14単位)以上、特別演習科目4科目(8単位)以上を含めて、合計30単位以上の修得を必要とする。
- 5) 修士(工学)の学位を取得するためには、上記の課程修了要件に加えて、工学研究科履修規程に従い、修士論文、又は所定の試験について条件を満たす必要がある。
- 6) 科目の内容については、シラバスを参考にすること。
- 7) 表内の科目修得チェック欄を活用し、各自修得状況の把握に努めて下さい。
- 8) 備考欄※1印の科目は建築士実務経験対応科目である。
- 9) 備考欄※2印の科目は建築士実務経験対応科目であり、修了要件に含まない。

## 別表 2

### 工学研究科後期博士課程

#### 機械物理系専攻

科目名	担当者	配当年次	科目の形態	単位数	備考
ゼミナール	各教員	1・2・3	演習	2	
後期特別研究	各教員	1・2・3	演習	4	

- 1) 後期特別研究（4単位）及びゼミナール（2単位）を必修とする。
- 2) 課程修了には上記を含めて合計6単位以上の修得を必要とする。
- 3) 博士（工学）の学位を取得するためには、上記に加えて博士論文の審査及び試験に合格することが必要である。

#### 電子情報系専攻

科目名	担当者	配当年次	科目の形態	単位数	備考
ゼミナール	各教員	1・2・3	演習	2	
後期特別研究	各教員	1・2・3	演習	4	

- 1) 後期特別研究（4単位）及びゼミナール（2単位）を必修とする。
- 2) 課程修了には上記を含めて合計6単位以上の修得を必要とする。
- 3) 博士（工学）の学位を取得するためには、上記に加えて博士論文の審査及び試験に合格することが必要である。

## 工学研究科後期博士課程

### 化学生物系専攻

科目名	担当者	配当年次	科目の形態	単位数	備考
ゼミナール	各教員	1・2・3	演習	2	
後期特別研究	各教員	1・2・3	演習	4	

- 1) 後期特別研究（4単位）及びゼミナール（2単位）を必修とする。
- 2) 課程修了には上記を含めて合計6単位以上の修得を必要とする。
- 3) 博士（工学）の学位を取得するためには、上記に加えて博士論文の審査及び試験に合格することが必要である。

### 都市系専攻

科目名	担当者	配当年次	科目の形態	単位数	備考
ゼミナール	各教員	1・2・3	演習	2	
後期特別研究	各教員	1・2・3	演習	4	

- 1) 後期特別研究（4単位）及びゼミナール（2単位）を必修とする。
- 2) 課程修了には上記を含めて合計6単位以上の修得を必要とする。
- 3) 博士（工学）の学位を取得するためには、上記に加えて博士論文の審査及び試験に合格することが必要である。

# 資格について

ここに記載する内容は、平成 26 年(2014 年)3 月時点のものです。資格によっては、受験申請などの手続きの時点において、そのときの法律等によって資格の有無を審査されるものもあります。また、法律等の改正によって、一定の救済措置はとられるものの、要件が大きく変更される可能性もあります。以下の記載内容が常に有効とは限らないことにご留意ください。

## ○建築士(建築士法)

建築学科ならびに都市学科において、所定の必要単位を修得し卒業後、修得単位数に応じて定められた一定期間(最短 2 年間)建築に関する実務に従事した者は、1 級建築士試験を受験することができる。

建築学科ならびに都市学科において、40 単位以上の所定必要単位を修得して卒業した者は実務経験なしで、また 40 単位未満の所定単位を修得し卒業後、修得単位数に応じて定められた一定期間(最短 1 年間)建築に関する実務に従事した者は、2 級・木造建築士試験を受験することができる。

(主務官庁:国土交通省)

注:詳しい内容については、別冊子「建築士受験資格の履修概要」を参照すること。

## ○測量士(測量法)

都市学科において、「測量に関連する科目」\*を 30 単位以上修得し、卒業後 1 年以上測量に関する実務に従事した者は、願出により測量士の資格を受けることができる。

都市学科において、「測量に関連する科目」\*を 30 単位以上修得して卒業した者は、願出により測量士補の資格を受けることができる。

\* 都市学科の「測量に関連する科目」の詳細は、別紙「測量士資格の履修概要」を参照すること。

(主務官庁:国土交通省)

## ○危険物取扱者(消防法)

化学バイオ工学科卒業生または在学中において化学に関する科目を 15 単位以上修得した者は、甲種危険物取扱者試験を受験できる。

(主務官庁:各都道府県)

## ○技術士(技術士法)

工学部卒業生は技術士国家試験第一次試験(共通科目試験免除)に合格すれば技術士補の資格が得られる。資格取得後さらに政令の定める期間(4~7 年)の専門的業務経験を経て第二次試験に合格すれば、「技術士」の資格が得られる。

JABEE 認定プログラム修了者(JABEE 認定期間中に当該学科を卒業した者)は、修了(卒業)した時点から「修習技術者」となる。「修習技術者」は、政令の定める期間(4~7 年)の専門的業務経験を経て技術士第二次試験に合格すれば、「技術士」の資格が得られる。また「修習技術者」は登録により「技術士補」の資格を受けることができる。

(主務官庁:文部科学省)

○安全管理者(労働安全衛生規則)

工学部卒業生で2年以上産業安全の実務経験のある者は安全管理者に就任できる。  
(主務官庁:厚生労働省)

H26年3月現在

# 教職免許について

## ○工学部における教職免許（高校一種・工業）の授与条件について

本学部は課程認定を受けているので、下記の1から8の条件を満たせば免許を受けることができます。

1. 日本国憲法（全学共通科目・2単位）を修得すること
2. 健康・スポーツ科学科目（全学共通科目）のうち講義科目（各2単位）または実習科目（各1単位）から2単位以上修得すること
3. 外国語コミュニケーション科目を修得すること（2単位以上）（注1）
4. 情報機器の操作についての科目を修得すること（2単位以上）（注2）
5. 「教科に関する科目」（注3）
6. 「教科又は教職に関する科目」（注3）
7. 「教職に関する科目」（注3）
8. 卒業する（学士の学位を得る）こと

（注1）本学においては、英語科目のCE・I、II、III、IV、V、VI（各1単位）や各新修外国語応用などが対象です。

（注2）全学共通および各学科で開講されている計算機を使用する演習・実習科目が対象です。

（注3）この3つのカテゴリーから所定の単位数の修得が必要です。それぞれの詳しい内容については、教職の案内冊子「教職課程の履修概要」を参照してください。

## 申請方法について

上の1から8までの条件を満たせば教職免許（高校一種・工業）を得る資格があります。資格のある人が教育委員会に申請すると免許状が手に入ります。

申請方法には二通りあります。一つは一括申請といい、もう一つは個人申請といいます。

### 「一括申請」

卒業見込の在学者（ただし他大学で単位の一部を修得した者、追加申請者、検定による申請者は除く）で、所定の単位を修得済み、または修得見込みである者については、大学から申請を行う。

上記の者は、例年10月頃に（詳細は掲示にて周知）、本学に教育職員免許状授与願を提出すること。提出された授与願にもとづき、大学でとりまとめて大阪府教育委員会に一括申請する。教育職員免許状は、卒業式の日に交付する。

### 「個人申請」

卒業後に申請する場合（工業免許以外の科目を申請する者、他大学の単位を含む者、追加申請する者等を含む）は、住所地等の都道府県教育委員会に申請手続き方法を確認して、個人で申請すること。

## ○工学研究科における教職免許（高校専修・工業）の授与条件について

本研究科は課程認定を受けているので、下記の1から3の条件を満たせば修了後または修了と同時に免許を受けることができます。

1. 教職免許（高校一種・工業）を修得するのに必要な条件を満たしていること
2. 自分の所属する専攻の科目を24単位以上修得していること（注1）
3. 修了する（修士の学位を得る）こと

（注1）「前期特別研究」等、一部対象とならない科目があります。詳しい内容については「教職課程の履修概要」を参照してください。

### 申請方法について

高校一種と基本的に同じです。

## 【FAQ】

Q 1) 高校一種免許と高校専修免許とはどちらがうのですか。

A 1) 専修免許は一種免許の内容を包含しているため、一種免許と専修免許を両方取得する（つまり、学部卒業時に一種免許を、前期博士課程修了時に専修免許を申請すること）ことには意味はないと思います。

4回生の一括申請時までには大学院に進学するかしないかは決まっていると思いますので、大学院に進学する方は学部卒業のときは申請せずに前期博士課程修了のときに専修免許を申請した方がいいでしょう。

Q 2) 「工業」以外の教科の「高校」免許や「中学」免許はとれないのですか。

A 2) 「検定」という制度があります。これは「高校・工業」の免許を基礎資格として、その上追加で他分野の教職専門科目を修得することによって「高校・理科」や「高校・数学」を修得するものです。

「中学・理科」「中学・数学」免許は、「検定」制度を利用できませんので、修得を必要とする単位数が「高校」免許よりかなり多くなり、1年次のうちから免許取得に向けて履修計画等を組むことが必要になります。

なお「中学・工業」免許については、本学は認定を受けていませんので取得することはできません。

以上の詳細については、学生サポートセンター工学部教務担当まで。

Q 3) 教職免許取得に必要な専門科目の単位は卒業に必要な単位に含まれないのですか。

A 3) 教職の案内冊子「教職課程の履修概要」の別表1に掲載されている科目（職業指導・4単位除く）は卒業に必要な単位としてカウントされます。

# その他の注意事項

## 【1】休業日等について

(大学学則 抜粋)

(学期)

第 5 条 学年を分けて次の2学期とする。

前 期 4月1日から9月30日まで

後 期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第 6 条 休業日は次のとおりとする。

(1)日曜日及び土曜日

(2)国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日

(3)春季休業 3月20日から4月6日まで

(4)夏季休業 8月5日から9月15日まで

(5)冬季休業 12月23日から翌年1月7日まで

(6)その他学長が必要と認めた日

2 学長は、特別の事情があると認めるときは、前項第3号から第5号までの休業日を取りやめ、又は変更することができる。

## 【2】交通スト当日の杉本地区学舎の授業について

次の交通機関のいずれかがストライキを行った場合の授業は、休講とする。ただし、別表のとおりスト解除の時刻により、全部又は一部の授業を行う。

(1)JR 阪和線

(2)私鉄(近鉄、阪急、阪神、南海、京阪)の1社以上

(3)地下鉄及び JR 環状線が同時

## 【3】台風時等の杉本地区学舎の授業について

(1)別段の通知をしない限り、大阪府下に暴風警報が発令された場合、当日の授業は休講とする。

ただし、別表のとおり警報解除の時刻により、全部又は一部の授業を行う。

(2)別段の決定をするときは、学生サポートセンター掲示板及びポータルサイトに掲示する。

別 表

スト／警報 解除の時刻	休講となる時限	授業を行う時限
午前7時以前		全時限
午前10時以前	1・2時限	3・4・5時限
午前10時を過ぎても解除されない場合	全時限	

#### 【4】各種手続きについて

##### (1) 退学及び休学について

退学願、休学願の提出は、緊急の場合を除いて、前期から願い出る者は前年度の2月末日、後期から願い出る者は8月末日までに行わなければならない。

なお、休学は病気その他やむを得ない事情のため、2か月以上にわたって学修できない場合に願い出ることができる。

##### (2) 転学部・転学科について

転学部希望者は、受け入れ学部により手続きの時期や方法が異なるので、学生サポートセンター工学部教務担当(以下、工学部教務担当)に申し出て指示を受けること。

工学部内の転学科希望者は、前年度の1月末日までに工学部教務担当に申し出て指示を受けること。

##### (3) 各種変更届けについて

入学時に申請した住所、保証人の住所、通学経路、氏名等に変更があった場合は、速やかに工学部教務担当に届け出ること。

##### (4) 学生証の再交付について

紛失等で再交付の必要がある場合は工学部教務担当に再交付願を提出すること。再交付には原則として実費がかかる。

##### (5) 既修得単位の認定について(学部生のみ)

大学(外国の大学、短期大学を含む)を卒業又は中途退学し、新たに1年次に入学した者の既修得単位(科目等履修生として修得した単位を含む)については、30単位を超えない範囲で当該入学後大学において修得した単位として認定することがある。

既修得単位認定の申請は、入学年度4月末日までに行わなければならない。認定の条件等は、工学部教務担当に確認すること。

#### 【5】身体に障がいのある学生の受講について

障がいを有する学生が受講等について要望ある場合は、工学部教務担当に申し出ること。

#### 【6】履修登録及び成績の確認について

各セメスターの履修登録及び成績確認は、時間割の「履修登録の流れ」を確認のうえ、Web履修システムにて各自行うこと。履修登録は、指定期日までに必ず完了すること。

#### 【7】その他

##### (1) 連絡は、掲示等にて行うので常に注意しておくこと。

工学部及び専門科目関連:学生サポートセンター工学部掲示板、ポータルサイト(工学部・工学研究科)

全学共通科目関連:全学共通教育棟ピロティ掲示板、ポータルサイト(全学共通教育)

経済支援(奨学金等)、教職等:学生サポートセンターメインホール各種掲示板、ポータルサイト(各種別)

##### (2) 学割証及び各種証明書(在学証明書、成績証明書、卒業・修了見込み証明書)が必要な場合は、証明書自動発行機にて取得すること。なお、取得する場合は、「学生証」、入学時に配付した「全学認証システム及びポータルシステム利用者ID・パスワード」及び手数料を必要とする。

※上記以外の証明書(英文証明書、様式指定のものなど)が必要な場合は、工学部教務担当に問い合わせること。

#### 【授業時間】

第1時限	9:00～10:30	第2時限	10:40～12:10
第3時限	13:00～14:30	第4時限	14:40～16:10
第5時限	16:20～17:50		



工学部・大学院工学研究科  
履修要覧 平成26年度版(2014年度版)

発行 2014年4月

大阪市立大学工学部

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

TEL 06-6605-2653